

千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画

～21 世紀の国際空港都市地域を目指して～

（平成 28 年 8 月改訂）

（令和 3 年 10 月一部変更）

（令和 7 年 3 月一部変更）

千歳・苫小牧地方拠点地域整備推進協議会

千歳市・苫小牧市・恵庭市・白老町・安平町・厚真町

目 次

第1章 はじめに

- 1. 計画作成の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 計画の名称と性格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 地方拠点都市地域の名称等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章 地域のすがた

- 1. 地勢・気候・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2. 土地利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3. 人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4. 産業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 5. 公共施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 6. 住宅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 7. 市町の特性とまちづくりの方向・・・・・・・・・・・・・・ 7

第3章 地域の将来像と整備の基本方向

- 1. 地域の将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 2. 地域整備の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3. 地域整備の基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 4. 機能整備の基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 5. 機能配置とゾーニング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 6. 各市町の機能分担・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第4章 拠点地区整備

- 1. 拠点地区の整備方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 2. 拠点地区の整備概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

第5章 重点的に推進すべき事項

- 1. 公共施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
- 2. 居住環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
- 3. 商業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
- 4. 医療・福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
- 5. 人材育成、地域間交流、教養文化活動等・・・・・・・・・・ 54

第6章 その他整備に関し必要な事項

1. 地域振興に関する計画等との協調 56

2. 環境の保全 56

3. 地価の安定 56

4. 適正かつ合理的な土地利用 56

5. 国土の保全、災害の防止 57

6. 農山漁村の整備の促進等に関する配慮 57

7. 地域産業の健全な発展との調和 57

8. 周辺地域の振興に関する配慮 57

9. 推進体制の確保 57

第1章 はじめに

1 計画作成の意義

新千歳空港は、国内航空路線網の基幹空港で北海道における国際航空の拠点であり、国の国土形成計画や北海道総合開発計画、北海道総合計画等において、国内外との人流や物流を支える交通拠点として、空港の整備や機能強化の必要性が位置付けられている。

本計画は、この新千歳空港を核とし、空港を取り巻く各種計画・構想との連携を図りながら、空港が所在する千歳市・苫小牧市及び周辺市町を含めた3市3町が一体となって高次都市機能・産業機能等の集積を促進することにより、地域全体の振興・活性化と北海道全体の発展を牽引する地方拠点都市地域の形成を図ることを目的として策定するものである。

2 計画の名称と性格

本計画の名称は「千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画」とする。

この計画は、千歳・苫小牧地域をとりまく社会、経済、文化等の諸環境の変化や道央中核都市圏における役割・波及効果を考慮しながら、長期的展望にたった千歳・苫小牧地域の将来像を具現化していくために必要な広域的・総合的な施策を体系的に定めるものである。

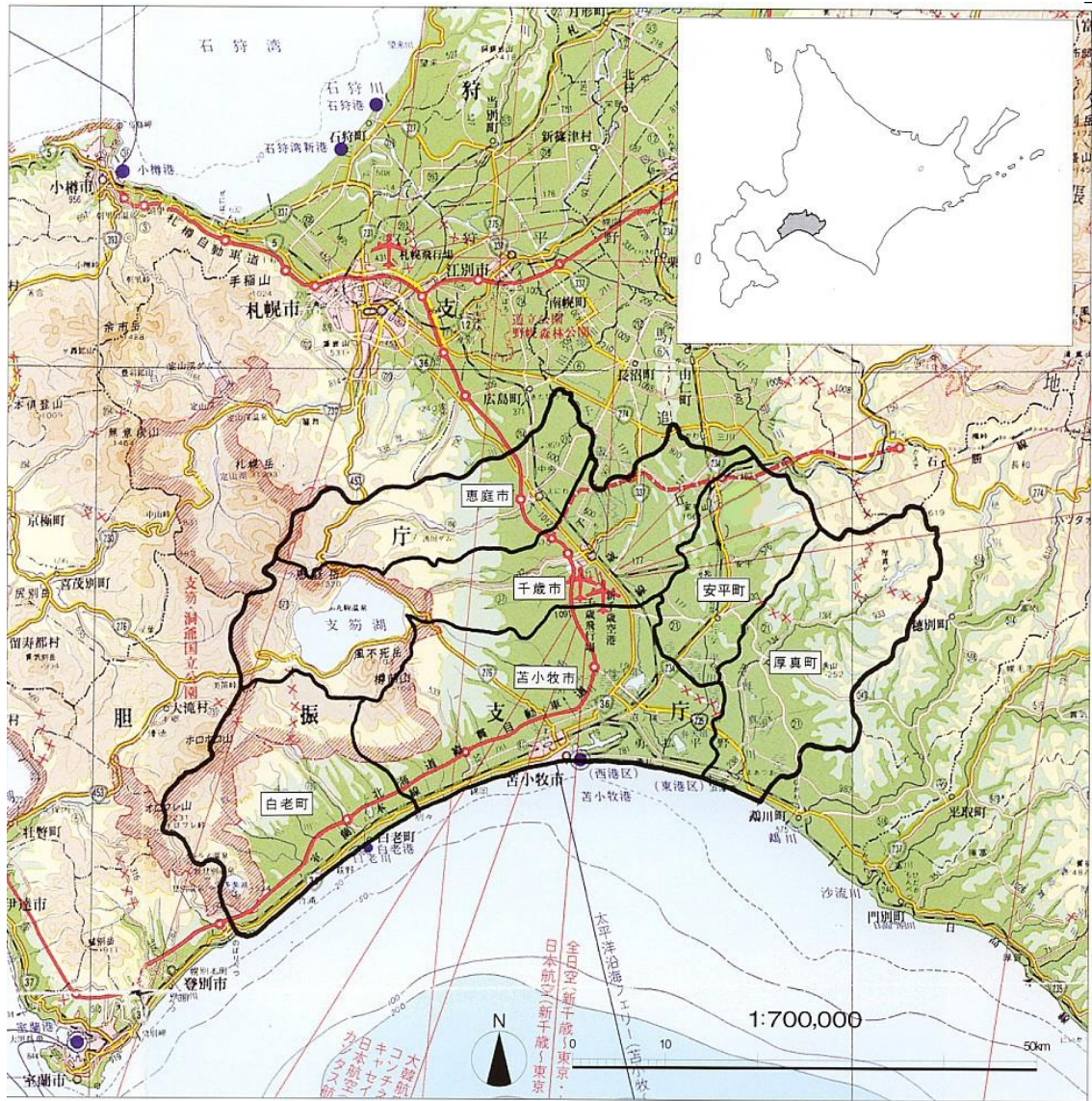
3 計画期間

本計画は平成28年度から概ね10年間を計画期間とする。

4 地方拠点都市地域の名称等

- (1) 名称 千歳・苫小牧地方拠点都市地域
- (2) 構成 千歳市、苫小牧市、恵庭市、白老町、安平町、厚真町の3市3町
- (3) 中心都市 千歳市、苫小牧市

■計画区域図



第2章 地域のすがた

1. 地勢・気候

本地域は、北海道の中央南部に位置し、北は札幌市に近接し、南は太平洋に面している。石狩平野と勇払原野にまたがる低地帯を中心に、支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖、樽前山をはじめとして、恵庭岳等の山岳、ウトナイ湖等の湖沼、千歳川等の河川など、自然条件に恵まれた変化に富む地勢である。

本地域の気候は、太平洋の影響を受け、春夏の南風、秋冬は北北東の風が安定的に吹き、北海道内でも温暖で冬季の降雪量も比較的少ない地域に属し、梅雨期がなく快適な条件に恵まれている。

2. 土地利用

(1) 行政区域別面積

本地域の面積は 2,518.12 k m²（対全道比 3.01%）で、行政区域別内訳は次のとおりである。

■ 行政区域別面積（単位：k m²）

千歳市	苫小牧市	恵庭市	白老町	安平町	厚真町	合計
594.50	561.57	294.65	425.64	237.16	404.61	2,518.13

(2) 地目別状況

本地域の地目別土地利用状況は次のとおりである。田・畑及び山林で約 53.8%を占めている。また、全道平均に比べて湖沼の比率が高いのが特徴である。

地目別の土地利用状況（単位：k m²、%）

田	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	合計
76.48 (3.0)	188.76 (7.5)	109.07 (4.3)	105.98 (4.2)	1,090.81 (43.3)	35.40 (1.4)	151.13 (6.0)	99.21 (4.0)	661.29 (26.3)	2,518.13 (100.0)

(3) 都市計画区域面積

本地域の市町には都市計画区域が定められており、その合計面積は 128,350ha である。

このうち、市街化区域が 25,192ha、市街化調整区域が 103,158ha となっている。

また、用途地域別の面積比率では、住居系 7,210ha（28.7%）、商業系 512ha（2.0%）、工業系 17,470ha（69.3%）と工業系用途地域が大半を占めている。

3. 人口

本地域の総人口（平成 27 年 3 月末現在）は 368,802 人であり、全道の総人口 5,465,451

人の 6.8%となっている。また地域内で人口規模の最も大きいのは苫小牧市 (173,640 人) であり、地域人口の 47.1%を占めている。次いで、千歳市 (94,820 人)、恵庭市 (68,898 人)となっている。

本地域の平成 15 年～平成 27 年における人口動態をみると、千歳市、苫小牧市、恵庭市では人口が増加しているが、白老町、安平町、厚真町では人口が減少しており、本地域全体では 1.2%の増加となっている。

■ 地域の人口（単位：人）

千歳市	苫小牧市	恵庭市	白老町	安平町	厚真町	合計
94,820	173,640	68,898	18,193	8,543	4,708	368,802

（平成 27 年 3 月末住民基本台帳）

4. 産業

本地域の就業者数は 170,229 人（平成 22 年国勢調査）であり、地域総人口 369,300 人（平成 22 年国勢調査）の 46.10%を占めている。また、本地域の就業者は全道就業者の 14.24%となっている。産業別就業者数の構成割合は、第 1 次産業が 4.0%、第 2 次産業が 23.6%、第 3 次産業が 72.4%と、全道割合（第 1 次産業 7.7%、第 2 次産業 18.1%、第 3 次産業 74.2%）と比べ、第 2 次産業の比率が高く、第 1 次産業及び第 3 次産業の割合が低くなっている。

第 1 次産業では農業の比率が最も高く、農業従事者（2010 年世界農林業センサス）は 2,760 人で全道の 2.5%を占めている。主な特産品はハスカップ、メロン、グリーンアスパラ、花卉などである。

第 2 次産業では製造業の比率が最も高く、その事業所数は 454 事業所、従業員数は 24,775 人、製造品出荷額は 1,394,672 百万円と、それぞれ全道の 7.9%、14.9%、22.7%を占め、事業所の大部分は千歳、苫小牧両市に立地している。このうち、出荷額の大部分は、石油製品・石炭製品、輸送用機械器具、パルプ・紙・紙加工品、食料品、電気機械器具等の業種で占められている（平成 22 年工業統計）。

第 3 次産業では卸・小売業就業者の比率が高くなっているが、対全道比では公務が 12.7%、運輸・通信業が 9.8%と人口比率や就業者比率を上回っている。

5. 公共施設

（1）河川・砂防・海岸

河川整備については、洪水被害を防ぐため、千歳川流域で堤防・河道掘削・遊水地群の整備が進められているほか、安平川、勇払川、厚真川などでは築堤、護岸等の整備が進められており、これら治水施設の整備にあわせ千歳川、漁川、苫小牧川、美々川、ウトナイ湖等で、親水性や自然環境に配慮した整備が実施されている。

ダムについては、厚幌ダムの整備が進められている。

砂防整備については、都市周辺の砂防事業等の整備が進められているほか、樽前山火山砂防事業の整備が進められている。

海岸整備については、高潮対策や侵食対策のため胆振海岸、苫小牧港海岸の整備等が進められている。

（２）道路

本地域では北海道縦貫自動車道が供用されており、千歳、新千歳空港、苫小牧東、苫小牧西、恵庭、白老の合計６箇所のインターチェンジによって旭川、札幌及び室蘭などの道内主要都市と連絡され、北海道横断自動車道の千歳東ＩＣ～追分町ＩＣ間や日高自動車道の苫小牧～厚真間が整備されている。

また、国道では、36号などの7路線のうち、道央圏連絡道路（国道337号）泉郷道路などで整備が行われているほか、地域内交通ネットワークの強化を図るため道道泉沢新千歳空港線、道道新千歳空港線、道道静川美沢線、及び道道千歳鶴川線等の道道や市町村道の整備が進められている。

（３）鉄道

本地域の鉄道はＪＲ千歳線、室蘭本線、石勝線を基幹とし、これに苫小牧と様似間を結ぶＪＲ日高本線の合計４路線がある。

ＪＲ千歳線については、平成4年の新千歳空港の旅客ターミナルの供用に合わせて、ターミナル直下まで延伸されている。

（４）空港

新千歳空港は、日本の「北の国際拠点空港」として、長さ3,000mの滑走路2本を備え、国内26路線、国外13路線、合計39路線の定期便が運航されている。国内旅客数（平成27年）は約1,835万人、また、国際旅客数は約210万人、前年比（平成27年／平成26年）1.36倍と高い伸びをみせている。

なお、本地域内の各市町から新千歳空港へは、ＪＲ及び幹線道路利用により概ね30分以内での連絡が可能である。

（５）港湾

北海道を代表する海の玄関口である苫小牧港は、国際拠点港湾に指定されており、北海道はもとより日本国内の産業や生活を支える国内屈指の物流拠点港湾として、非常に重要な役割を担っている。平成27年の取扱貨物量は、外貿1,836万トン、内貿8,667万トン、合計10,503万トン（いずれも速報値）となり3年連続で1億トンを超える結果となった。また、北海道の港湾取扱貨物量の5割を占めるなど、北海道を代表する国際貿

易港として発展を続け、北海道経済に大きな役割を果たしている。

さらには平成 20 年に外貿コンテナ機能を西港区から東港区へ移転し、平成 25 年には国際フィーダー機能を全面移転したことにより、東港区におけるコンテナ取扱個数は約 24 万 8 千 TEU と過去最高を記録している。

東港区の国際コンテナターミナルの機能強化を図るとともに、西港区西ふ頭では、耐震強化岸壁が整備され、貨物輸送の近代化にともなう RORO 船、コンテナ船、フェリーなどの内貿ユニットロード貨物に対応した施設の整備も進められている。

（６）下水道

公共下水道の整備に関しては、千歳市、苫小牧市、恵庭市、白老町、安平町、厚真町の 3 市 3 町において整備されており、平成 26 末現在の下水道普及率は 90%を超えている。

（７）公園・スポーツ・レクリエーション施設

本地域は、支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖周辺、恵庭岳、樽前山系山麓及び千歳川、漁川、ウトナイ湖など豊かな緑と自然環境に恵まれている。

本地域の公園・スポーツ・レクリエーション施設としては、千歳市市街地に隣接した自然林の豊富な総合公園である青葉公園（102ha）や鮭の遡上がみられるサーモンパーク等のほか、苫小牧市では、市民の憩いの森となっている緑ヶ丘公園（91ha）、市民文化公園（10ha）、オートキャンプ場を設置した錦大沼公園（230ha）、川沿公園（6ha）等が整備されている。また、白老町では、自然体験型レクリエーション拠点となるふるさと 2000 年の森（420ha）のほか、萩の里自然公園整備（200ha）が、安平町ではときわ公園整備（49ha）が進められている。

（８）学術研究・教養文化施設

本地域における学術研究・教養文化施設としては、理工系大学 1 校、文系大学 2 校、工業系高等専門学校 1 校、専修学校・各種学校 10 校のほか、公会堂・市民会館が 5 箇所、図書館が 6 箇所、博物館が 3 箇所整備されている。

（９）情報通信基盤

情報通信を取り巻く環境は近年劇的に変化しており、いつでも誰でも何処でもインターネットやスマートフォン等による情報のやり取りや通信を自由に行える時代がやってきており、情報通信をめぐる新しい動きは社会・経済活動へのインパクトのみならず、家庭や個人の暮らし・生活にも画期的な変革をもたらしつつある。

この様な背景のもと、構成市町において地域情報化の基盤整備が進められているとともに、インターネット等による本地域内の情報ネットワーク化が図られている。

6. 住宅

本地域の住宅総数は、平成 22 年国勢調査で 156,175 戸となっており、千歳市 38,374 戸、苫小牧市 76,167 戸、恵庭市 27,546 戸、白老町 8,380 戸、安平町 3,740 戸、厚真町 1,968 戸となっている。また、持家率は、それぞれ 52.5 %、52.2 %、62.3 %、72.9 %、63.6 %、65.4 %となっており、北海道全体の持家率 56.2 %からみると、千歳市、苫小牧市がやや低く、その他は比較的高くなっている。

また、本地域における公的賃貸住宅の総数は、道営住宅 1,014 戸、市町営住宅（特公賃、改良住宅を含む。）13,001 戸、雇用促進住宅 920 戸の計 14,935 戸となっている。

7. 市町の特性とまちづくりの方向

（1）千歳市

千歳市は、北海道の政治・経済の中心都市である札幌市に近接し、北海道の空の玄関・新千歳空港や鉄道・道路などの交通ネットワークが整備されており、交通拠点機能を生かし、製造業や物流、研究施設などの企業が立地する工業集積都市となっています。今後も新千歳空港を核とする本市が持つ特性を生かし、これまでのまちづくりの足跡と時代の潮流を踏まえ、まちの活力が市民との協働により持続し、都市として安定的な発展を続けながら質的な成熟を図っていくこととし、「みんなで生き生き 活力創造都市 ちとせ」を将来都市像としたまちづくりを目指している。

（2）苫小牧市

苫小牧市は、北日本最大の国際拠点港湾と国際空港を有するなど、国内、国外との交通・輸送手段に恵まれていることから、北海道を代表する物流拠点都市に発展しており、西部工業団地の形成や苫小牧東部地域開発の推進のほか、エネルギー関連産業など多様な産業の集積に取り組んでいる。今後も、優れた立地特性を活かして苫小牧東部地域などの広大な開発可能地を有効に活用しながら、さらなる産業発展基盤の形成に向け取り組みを進めていく。また、文化の薫り高く、うるおいある快適な都市環境づくりを進め、市民主体の理想都市「人間環境都市」の創造を目指している。

（3）恵庭市

恵庭市は、道都札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置する、充実した都市機能と美しい田園環境、恵まれた自然環境を有する道央圏の中核的都市として、住宅地や工業団地の整備を進めると共に、大学・専門学校等高等教育機関の誘致、上下水道や公共バスなどの都市基盤の整備を進めてきた。今後も水・緑・花に溢れ、安全安心に暮らせるコンセプトでバランスのとれた生活都市を目指し、人とのふれあいと生活の豊かさを実感できるまちづくりを目指している。

(4) 白老町

白老町は、高速道路や港湾等を有する恵まれた立地条件をいかし、工業都市として発展するとともに、先住民族であるアイヌ民族文化の伝承保存に力を注いできた。

アイヌ文化復興に関する中核的な役割を担う「民族共生象徴空間」は国が整備し、2020年に一般公開されることが決定していることから、アイヌ文化の伝承や保存、歴史認識など、アイヌ文化の復興等に関する取組みの強化を図るとともに、恵まれた多様な地域資源を活かしたまちづくりを目指している。

(5) 安平町

安平町は、酪農業や軽種馬産業、アサヒメロンをはじめとした農業を基幹産業としているほか、新千歳空港や苫小牧港との近距離性、高速道路や鉄道など交通の要衝という利便性を活かしながら企業誘致を進めており、今後も大規模太陽光発電所など新エネルギー産業をはじめ、さらなる企業誘致に取り組んでいく。

また、地域のスポーツを通じた健康教育、自然環境を活かした都市と農村の交流の場、鉄道文化を活かした憩いの場を創出しながら、「暮らしの笑顔が広がるぬくもりと活力と躍動のまち」を目指している。

(6) 厚真町

厚真町は、変化に富んだ自然環境が生み出す四季折々の優れた景観と豊かな産物を特徴としながら、稲作を中心とした農業を基幹産業として発展してきた。また、苫小牧港（東港）を有する苫小牧東部地域へは、電力や石油備蓄が立地している。まちづくりの目標は「あつまる つながる まとまる 大いなる田園の町 あつま」を基本として、新千歳空港に近接する利点と豊かな自然をいかした分譲地を創出し、都市と農村の多様な交流を進め、美しい自然の中で真に豊かな田園都市地域の形成を目指している。

第3章 地域の将来像と整備の基本方向

1. 地域の将来像

本地域は札幌市・室蘭市の都市群とともに道央中核都市圏を形成しているが、中核都市圏内でも特に空港・高速道路・港湾等の整備が進められており、空・陸・海の交通の要衝地である。また、広大な開発可能地を有する地域でもあり、製造品出荷額が全道の23.4%を占める（平成22年工業統計）など工業集積が進んでいる。

こうした状況を踏まえ、日本の北の国際拠点空港である新千歳空港の空港機能を十分に活用し、高次な都市機能を効果的に整備・配置することにより、「職・住・遊・学」の機能が整った魅力ある都市地域として次のような将来像を設定する。

21世紀の国際空港都市地域

従来から、新千歳空港は札幌方面への交通結節点としての役割が大きいが、新千歳空港の空港機能を最大限に活用し、空港機能に直結した業務、情報、交流、研究開発、教育研修、商流、物流機能等を集積させることにより、地域の高い工業集積を背景とする札幌市では望めない空港に直結した「国際的な産業交流拠点」の形成が可能であるとの視点から、札幌市に集中している様々な都市機能と機能分担を図ることによって、北海道産業及び文化等の飛躍的な発展の牽引と世界への架け橋としての役割を担うことを目指す。

2. 地域整備の課題

本地域は、国際航空ネットワークを活用した交流拠点の形成が求められており、「21世紀の国際空港都市地域」を形成し、地域の自立的成長を促進するために、次の課題を克服し、地域内人口の増加と定住の促進を図る必要がある。

- ① 本地域は臨空性をいかした高度組立産業等の工業集積が進みつつあるが、今後、空港機能を核として空港に直結した「国際的な産業交流拠点」を形成し、北海道の経済・産業をリードしていくためには、国際的な産業活動に対応した高度な産業集積が十分ではない。このため、新千歳空港の整備促進にあわせ、情報、研究開発、物流など多様な産業及び業務機能とこれを支える高等教育・人材育成機能等の集積・促進が必要である。
- ② 新たな産業業務機能の集積にともない就業人口が生まれることから、それに対応した魅力ある居住環境を備えた住宅地の整備を計画的に行うとともに、これを支える商業機能、保健・医療・福祉機能等の整備を行い、定住の促進を図る必要がある。

また、臨空・臨海性をいかした「北の国際交流拠点」を形成するためには、国際化

に対応した各種都市機能の導入・集積が十分ではないことから、コンベンション機能や文化・レクリエーション機能等の導入・整備が必要である。さらに、千歳市・苫小牧市には国際都市にふさわしい教育、文化、商業・サービス機能等の集積・充実が必要である。

- ③ 新千歳空港を核として国内外の交流をはじめ、産業の高度化や地域の一体的な成長を促進するためには、地域内の拠点地区等をつなぐ道路網や他の地域との交流を促進する高速交通ネットワーク等の整備・強化は過程の段階にあり、今後も新千歳空港の整備や世界各国との航空ネットワークの形成、及び苫小牧港等の整備や国内外の他港との海上輸送ネットワークの形成を図るとともに、北海道横断自動車道をはじめ日高自動車道、道央圏連絡道路など全道各地との高速交通ネットワークや地域内の各機能を有機的に連携させる地域内ネットワークの整備・充実を促進する必要がある。

3. 地域整備の基本的考え方

「21 世紀の国際空港都市地域」は、国際化が進む新千歳空港を核とした産業交流拠点を形成することにより就業機会を創出するとともに、各市町の特性を生かした一体的な地域整備を進め、「職・住・遊・学」の備わった魅力的な地域を形成するものである。このための地域整備の基本的な考え方は次のとおりとする。

なお、地域整備にあたっては、本地域内で展開されている苫小牧東部開発新計画との整合性の確保につとめ、相乗効果がもたらされるよう配慮する。

- (1) 北海道の経済及び産業等を牽引する「国際的産業交流拠点」を形成する。
- (2) 居住環境の向上を図り、魅力ある地域を形成するため、「定住促進機能や国際交流拠点機能などの多様な都市機能の導入・集積と高次で一体的な都市基盤整備」を図る。
- (3) 空港、高速道路及び港湾を活用し、「有機的な都市機能ネットワーク」を構築する。

4. 機能整備の基本的考え方

「21 世紀の国際空港都市地域」の形成を図るために必要な機能整備の考え方は、次のとおりである。

(1) 国際的な産業交流拠点機能

空港都市としての賑わいと魅力ある就業機会の創造

国際的な産業交流拠点を形成するため、空港活用型産業の拠点機能を整備する。

① 業務・情報・交流機能

地方における事務所立地の不利を克服するため、空港機能を最大限に活用した国際的なビジネスパークの形成を目指し、業務・情報・交流機能を整備する。

② 研究開発・教育研修機能

地域の「学」の機能を充実させるため、大学、研究機関等の立地を促進し、先端技術産業に直結した研究開発機能や人材育成・教育研修機能の集積を図るとともに、海外の大学、研究機関、民間ハイテク企業とのネットワークを形成する。

③ 商流・物流機能

新千歳空港の国際化や、空港機能を最大限に活用した商流・物流機能を整備し、拠点の形成を図る。

(2) 多様な都市機能

定住の促進と国際交流の促進を図るため、多様な都市機能を整備し、魅力ある地域の形成を図る。

1) 定住促進機能

空港の利便性と優れた自然環境をいかした安心して生活できる高水準の生活環境の形成

① 居住機能

他の都市機能との連携を図りつつ、地域が有する優れた自然環境を十分にいかし、ゆとりと潤いのある居住環境の整備を進める。

② 商業・アミューズメント機能

都市としての魅力を向上させるため、中核となる都市の商業・アミューズメント機能の充実を図る。

③ 保健・医療・福祉機能

地域住民が健全で質の高い生活を享受できるよう、保健・医療・福祉等の都市機能の充実を図る。

2) 国際交流拠点機能

定住を促進するとともに、個性的な北の国際交流拠点にふさわしい都市機能の整備

① 教養文化機能

地域に根ざした文化活動を積極的に支援し、多様化するニーズに即した高次の文化的・社会教育的諸機能を整備し、個性的な北の国際交流拠点の形成を図る。

② レクリエーション機能

優れた自然環境の保全に配慮しつつ、有効な活用を図り、地域内外の人が家族ぐるみで楽しむことができ、また、海外からの来訪者も気軽に利用できるレクリエーション機能を整備する。

(3) 情報・通信及び交通ネットワーク

国内外の交流をはじめ産業の高度化、複合化や地域の一体化を促進するため、有機的な情報・通信および交通ネットワークの整備を進める。

1) 情報・通信ネットワーク

地域の一体化を促進する都市機能の連携と基盤の整備

上記（１）、（２）に掲げる機能を有機的に連携させ、地域の一体化を促進するため、情報・通信ネットワーク等の整備・拡充を推進する。

2) 交通ネットワーク

地域内外の連携・交流を促進する総合的交通体系の整備

道央都市軸を形成する北海道縦貫自動車道、道央圏連絡道路（国道 337 号）、国道 36 号及び J R 千歳線の 4 本の南北動脈を軸として、拠点地区及び中核的公共施設を相互にラダー状に連結する交通網を形成する。

また、本地域開発のインパクトを全道、全国、海外に波及させるため、北海道縦貫自動車道、北海道横断自動車道、日高自動車道、道央圏連絡道路（国道 337 号）等の道路交通基盤の整備を促進するほか、空港・港湾機能の整備促進を図る。

5. 機能配置とゾーニング

（１）機能配置の考え方

機能配置にあたっては、既存の産業や都市機能の集積、優れた自然環境などといった地域特性のほか、空港周辺における各種プロジェクトの動向、空港を中心とする交通条件、本地域を構成する 3 市 3 町の既定計画等を総合的に勘案し、合理的な機能配置を図る。

- ① 国際的な産業交流拠点機能（業務・情報・交流機能、研究開発・教育研究機能、商流・物流機能）の配置にあたっては、魅力ある就業機会（「職」）を創出するため、空港を中心として高速道路、国道、J R 等の南北の交通動脈が整備されており、国際化が進展している新千歳空港が所在する特性とこれまでの工業集積を、千歳市には地域の産業交流機能を、苫小牧市には国際的な物流機能とともに魅力ある地域の形成をそれぞれ配置する。また、厚真町には近年の企業ニーズに応え、自然環境に配慮した工業団地やサテライトオフィスを整備できる広大な土地と環境に恵まれていることから企業移転機能を配置する。
- ② 多様な都市機能のうち、魅力ある拠点都市地域として必要と考えられる「遊・学」機能については、既に各種の都市機能集積のある千歳市、苫小牧市、恵庭市において、さらに高次の都市機能を配置するとともに、先住民族であるアイヌ民族文化の保存伝承を特徴とする白老町、緑と自然に恵まれた良好な立地環境とオリンピック選手を輩出するなどアイススポーツで有名な安平町早来地区、歴史的資源である「鉄道文化」や空港近接型の安平町追分地区においては、それぞれの特性をいかし教養文化、スポーツ・レクリエーション機能を配置する。
- ③ 「住」機能においては、各市町の都市規模と特性にあわせた良好な居住環境の創出につとめ人口の定住化を図る。

(2) ゾーニング

機能配置の考え方を踏まえて、次のようなゾーニングとする。

- ① 産業交流拠点機能及び高次都市機能を配置する千歳市、苫小牧市、恵庭市は、「国際空港都市ゾーン」として位置づけ、地域の産業核となる空港活用型の産業集積と都市的賑わいの創出を図る。
- ② 厚真町は、「空港活用企業移転ゾーン」として位置づけ、産業交流拠点形成のために優れた自然環境を活用し、産業の業務研修機能等の整備を進める。
- ③ 白老町及びこれに隣接する苫小牧市の一部は、「文化・レクリエーション体験ゾーン」として位置づけ、アイヌ民族文化を中心とした調査研究や保存伝承、交流拠点の形成と自然をいかした教養文化、レクリエーション機能の整備を進める。
- ④ 安平町は、「田園型ふるさと交流ゾーン」として位置づけ、田園環境にある地域の特性をいかしたゆとりある総合運動公園や（仮称）文化体育館など、地域住民や来訪者のための教養文化、スポーツ・レクリエーション機能の整備を進める。
- ⑤ 支笏湖を中心とするエリア（千歳市、苫小牧市、恵庭市、白老町の3市1町の一部）は、「自然型体験交流ゾーン」として位置づけ、優れた自然環境の保全に努めるとともに、既存のレクリエーション機能やコンベンション機能を有効に活用しながら魅力ある地域形成に努める。

6. 各市町の機能分担

国際空港都市ゾーン（千歳市、苫小牧市、恵庭市）

千歳市では国際化が進展している新千歳空港が所在する特性をいかし、地域の産業交流機能を担うこととしていることから、千歳オフィス・アルカディア地区において業務・情報・交流機能の集積、美々地区において学術研究機能を生かしながら業務や保健休養ゾーンの整備を目指す。さらに、蘭越地区において、豊かな自然環境の活用と保全を基本コンセプトとした国際交流拠点を整備する。

苫小牧市では、国際的な物流機能及び技術者の人材育成機能を担うこととしており、ウトナイ地区において、道内有数の工業都市としての背景をいかし、苫小牧市テクノセンターの活用を図る。また、魅力ある地域を形成するための高次都市機能として、苫小牧中心市街地地区において苫小牧市白鳥アリーナ、苫小牧市文化交流センター等を活用し、国内外の交流の場を創出する。さらに、植苗・美沢地区において、優れた自然環境と空港近接性をいかし、森林との共生を基本コンセプトとした国際交流拠点を整備する。

恵庭市では、水・緑・花に溢れ、安全安心に暮らせるコンパクトな生活都市の整備を進めており、定住促進機能を担うことから、西島松地区においては、優れた自然環境を充分にいかし、商業機能等が充実したゆとりとうるおいのある居住環境を備えた住宅地の整備を行う。

文化・レクリエーション体験ゾーン（白老町、苫小牧市の一部）

白老町では、教養文化、レクリエーション機能を担う地域として、白老駅北地区においてアイヌ民族文化保存伝承振興施設、大自然を背景としたレクリエーション拠点等の国際民族文化・健康交流機能を整備する。

苫小牧市では、隣接する白老町とともに自然環境をいかし、教養文化、レクリエーション機能を担い、地域の社会教育のため青少年キャンプ場やレクリエーション機能として温浴施設等を活用する。

田園型ふるさと交流ゾーン（安平町早来地区、安平町追分地区）

安平町早来地区では、田園環境にある特性をいかした教養文化、スポーツ・レクリエーション機能を担うこととしており、安平町早来北進地区においてスポーツ公園とその関連施設（スポーツセンター等）の整備により、スポーツを通じた健康教育機能、都市と農村のスポーツ交流機能の充実を図る。

また、民間活力などを活用したときわキャンプ場の整備・拡張を通じた交流人口の拡大、都市との交流を図る。

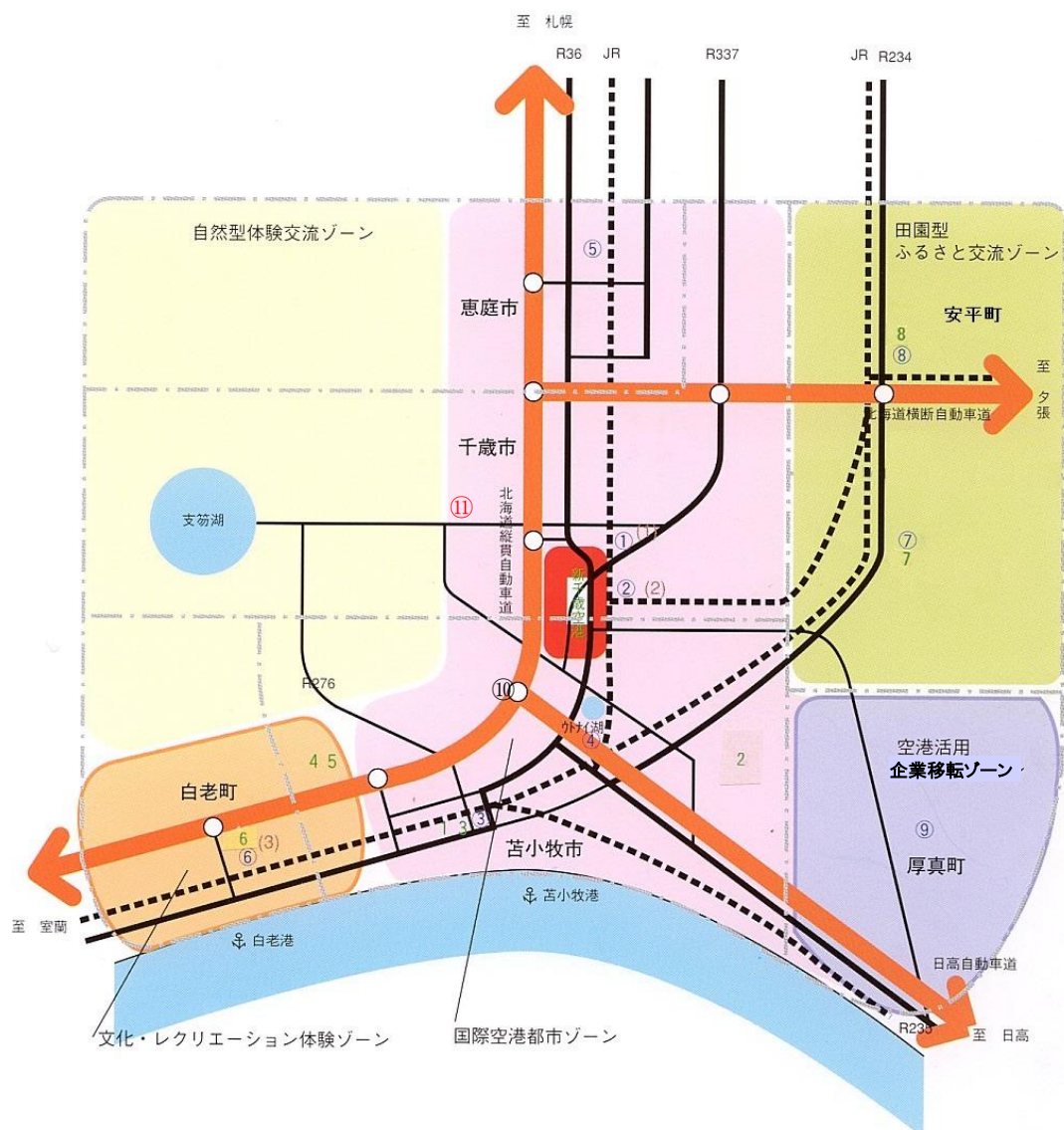
安平町追分地区では、追分駅周辺地区においてＪＲ北海道と十分連携を図りつつ、（仮称）文化体育館等の整備検討を進めながら、特性を活かした教養文化、レクリエーション機能の充実を図る。

空港活用企業移転ゾーン（厚真町）

厚真町では、空港機能を活用してより広範囲な地域の企業を対象に企業移転機能を担うこととしており、厚真町豊沢地区において雄大な自然環境の中で居住機能と一体となった企業向けのサテライトオフィス等を整備する。

なお、地域整備にあたっては、それぞれの機能と役割に即して、相互に緊密な連携を図りながら進めるものとする。

■ゾーニング図



拠点地区

- ① 千歳オフィス・アルカディア地区
- ② 美々地区
- ③ 苫小牧中心市街地地区
- ④ ウトナイ地区
- ⑤ 西島松地区
- ⑥ 白老駅北地区
- ⑦ 安平町早来北進地区
- ⑧ 追分駅周辺地区
- ⑨ 厚真町豊沢地区
- ⑩ 植苗・美沢地区
- ⑪ 蘭越地区

中核的な公共施設

- 1 苫小牧市白鳥アリーナ
- 2 苫小牧市テクノセンター
- 3 苫小牧市文化交流センター
- 4 青少年宿泊施設
- 5 温浴施設
- 6 スポーツセンター
- 7 (仮称) 文化体育館

中核的な民間施設

- (1) オフィス・アルカディア中核施設
- (2) 大学
- (3) アイヌ民族文化保存伝承振興施設

第4章 拠点地区整備

1. 拠点地区の整備方針

(1) 拠点地区の設定

本地域の特性は、国際化が進む新千歳空港をはじめとする陸・海・空の交通条件の優位性や工業集積の進展が今後一層見込まれる産業立地ポテンシャル、支笏洞爺国立公園等の雄大で豊かな自然環境を有することなどにある。

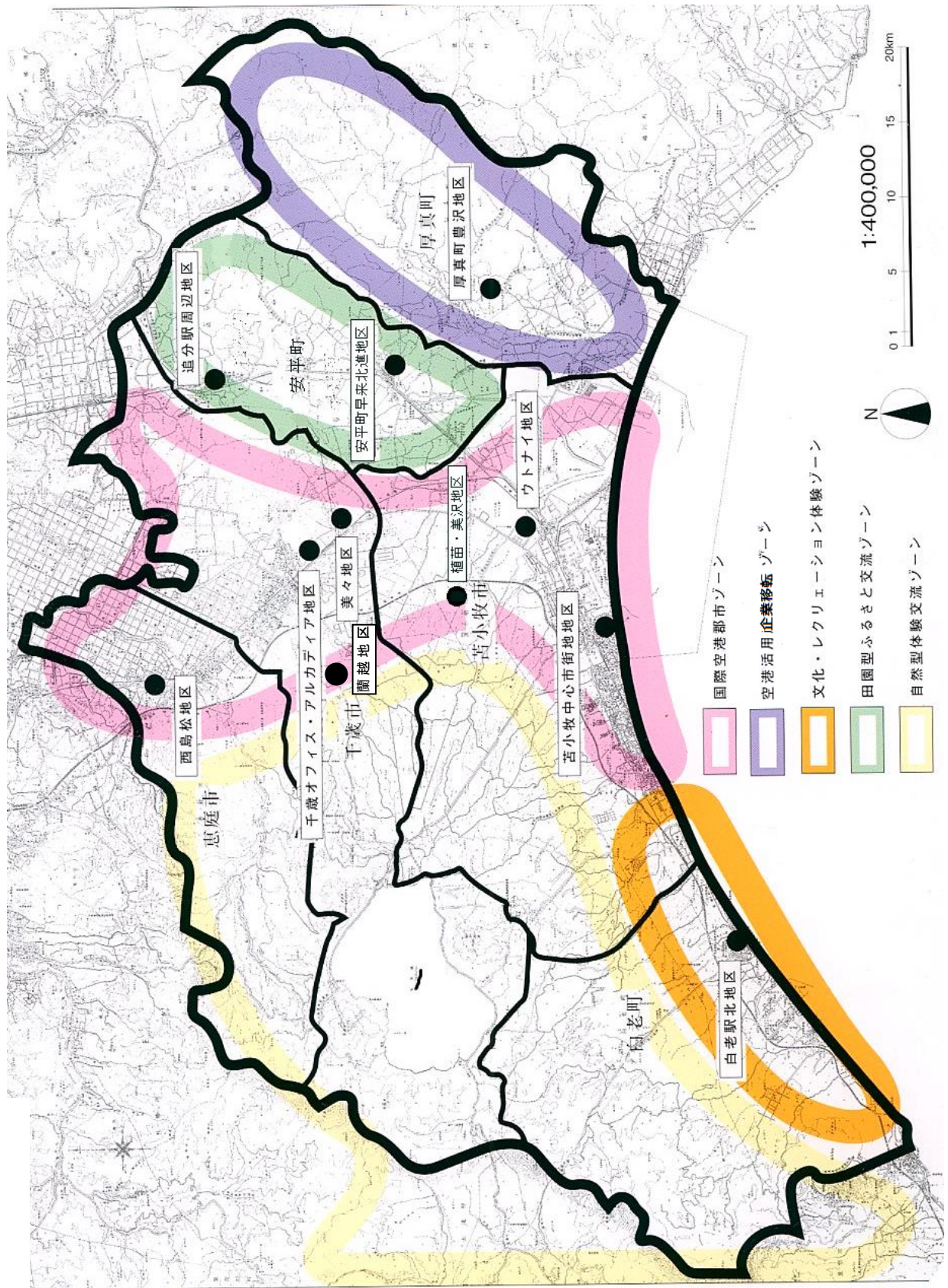
この地域特性をいかし、空港機能に直結した「国際的な産業交流拠点」を形成することにより空港都市としての賑わいと魅力ある就業機会を創出するとともに、都市的な賑わいをはじめとする「多様な都市機能」を整備することにより東京等の大都市一極集中の是正と地域の一体的な発展を図り、人口の定住化を促進させる。

このため、都市機能の集積や居住環境の整備を重点的に実施すべき地区として、土地の利用状況、事業実施のために利用可能な用地の存在、道路、公園等の公共施設の整備状況、既存施設の集積状況、地域の一体的な整備を進める上での諸機能の適正な配置や有機的な連携等を総合的に勘案し、それぞれの地区において役割を設定する。広域的な見地から業務機能等の集積を図る「千歳オフィス・アルカディア地区（千歳市）」、人や情報の交流の場となる大学が立地し、地域の「学」の機能を担うとともに、学術研究、人材育成の面から産業を支援する「美々地区（千歳市）」、物流機能の集積を図る「ウトナイ地区（苫小牧市）」、定住を促進するため、快適で利便性の高い都市機能を整備する「西島松地区（恵庭市）」、集積する産業の企業移転機能を担う「厚真町豊沢地区（厚真町）」、国際交流及び定住を促進するため、国際化に対応した高度な都市機能を整備する「苫小牧中心市街地地区（苫小牧市）」、国際的な交流拠点を整備する「植苗・美沢地区（苫小牧市）」、自然環境の活用と保全をテーマとした国際交流拠点を整備する「蘭越地区（千歳市）」、地域に根ざした民族文化を核に文化と教育の場を創出する「白老駅北地区（白老町）」、地域のスポーツを通じた健康教育、都市と農村の交流の場を創出する「安平町早来北進地区（安平町）」、鉄道文化をテーマにした教養文化、レクリエーション機能を整備する「追分駅周辺地区（安平町）」の11地区を設定する。

(2) 各拠点地区の規模

	【拠点地区名】	【主な機能】
国際的な産業交流拠点機能	千歳オフィス・アルカディア地区（千歳市） 39ha	業務、情報、交流
	美々地区（千歳市） 128ha	学術研究
	ウトナイ地区（苫小牧市） 119ha	物流
	厚真町豊沢地区（厚真町） 33ha	企業移転
定住促進・国際交流拠点機能	苫小牧中心市街地地区（苫小牧市） 84ha	商業、教養文化
	植苗・美沢地区（苫小牧市） 1,057ha	交流
	白老駅北地区（白老町） 76ha	教養文化
	安平町早来北進地区（安平町） 49ha	教育
	追分駅周辺地区（安平町） 21ha	教養文化
	西島松地区（恵庭市） 100ha	定住促進
	蘭越地区（千歳市） 6ha	交流、教養文化

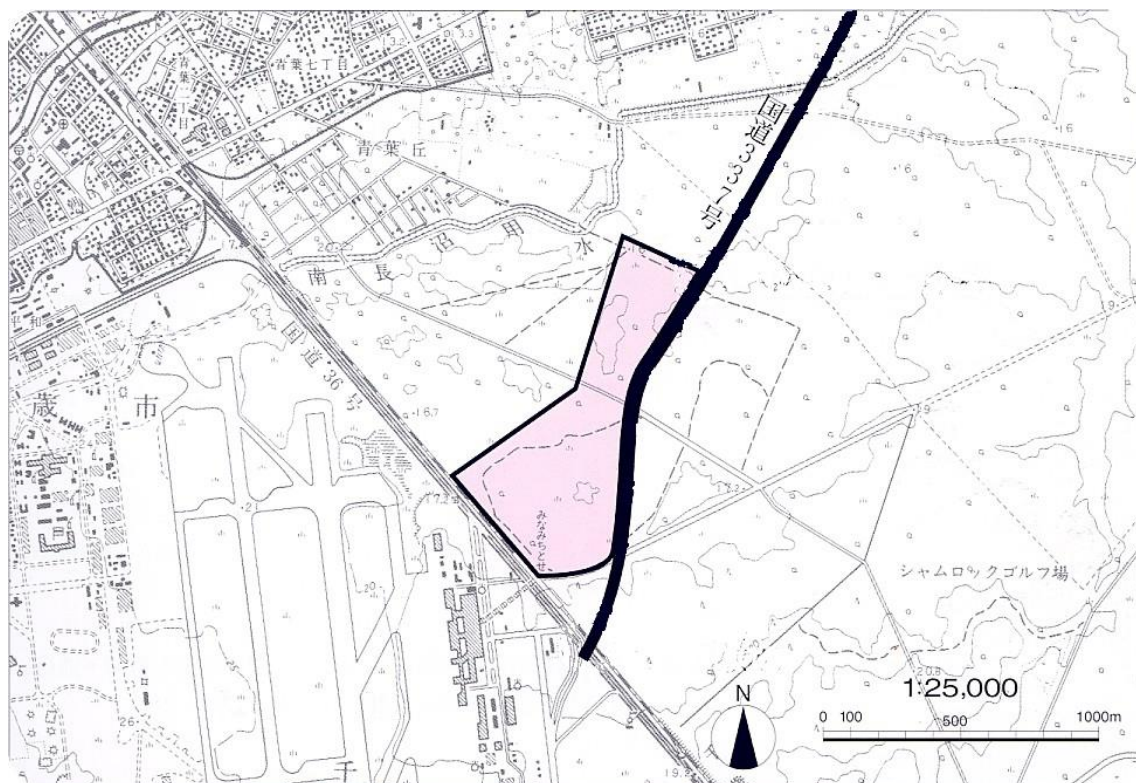
■拠点地区配置図



2. 拠点地区の整備概要

(1) 千歳オフィス・アルカディア地区（業務拠点地区）

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		39ha
地区概要	地形等の自然状況	平坦地
	土地利用状況	市街化区域
	下水道整備状況	公共下水道全体計画地区
	施設集積状況	J R南千歳駅、千歳アルカディア・プラザ、大型商業施設、レンタカー関連等企業、食品製造企業、電子部品・デバイス製造企業等
交通アクセス状況		・鉄道（J R南千歳駅）に隣接 ・空港（新千歳空港）まで自動車で5分 ・北海道縦貫自動車道（千歳IC）まで自動車で6分 ・北海道横断自動車道（千歳東IC）まで自動車で8分
他の拠点地区との連携		千歳オフィス・アルカディア地区には、工業・商業・各種サービス業・レジャー産業等のあらゆる産業が集積している。したがって地域内の他の拠点地区や広域的な経済圏において多様でかつ高度な産業構造を構築する拠点地区として、地域間のネットワークの結節点として他の拠点地区と連携している。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

（整備の方針）

当地区は、地方拠点法第6条第3項に規定する拠点地区として整備した。整備にあたっては、美々ワールドなどの周辺プロジェクトとの連携を図り、優れた交通ネットワーク機能や地域内外の生産機能の集積を背景とし、また、新千歳空港の機能拡充による全国的・国際的なネットワークと直結する立地特性を生かしながら、多様な産業・都市機能の集積を目指した。

（重点的に実施した事業の概要）

当地区は、地域振興整備公団（現独立法人 中小企業基盤整備機構）が平成7年度に団地造成に着手し、平成11年5月に分譲、平成20年6月に完売した。また、(株)千歳国際ビジネス交流センターによる産業業務機能支援中核施設「千歳アルカディア・プラザ」は、平成13年4月から開業し、産業交流事業、研修事業、ビジネス支援サービス事業等を実施している。

当地区は、当初のコンセプトの産業集積の実現に至らなかったが、千歳アルカディア・プラザの入居率は高水準で推移しており、また、大型商業施設であるアウトレットモールのほか、製造業、飲食店、レンタカー業などの企業が立地・操業しており、千歳市の観光産業や商工業の一翼を担う地域となっている。

④ 業務拠点地区の用地の確保、中核的な施設の活用、産業業務施設の集積の目標等基本的な方向

(産業業務施設の集積の目標等基本的な方向)

新千歳空港の機能拡充を背景に、広域的ネットワークの結節点という立地特性をいかして、企業に対する業務支援や人材育成、企業間交流の場を設けるなどの活動を行う。

(中核的な施設・活用等)

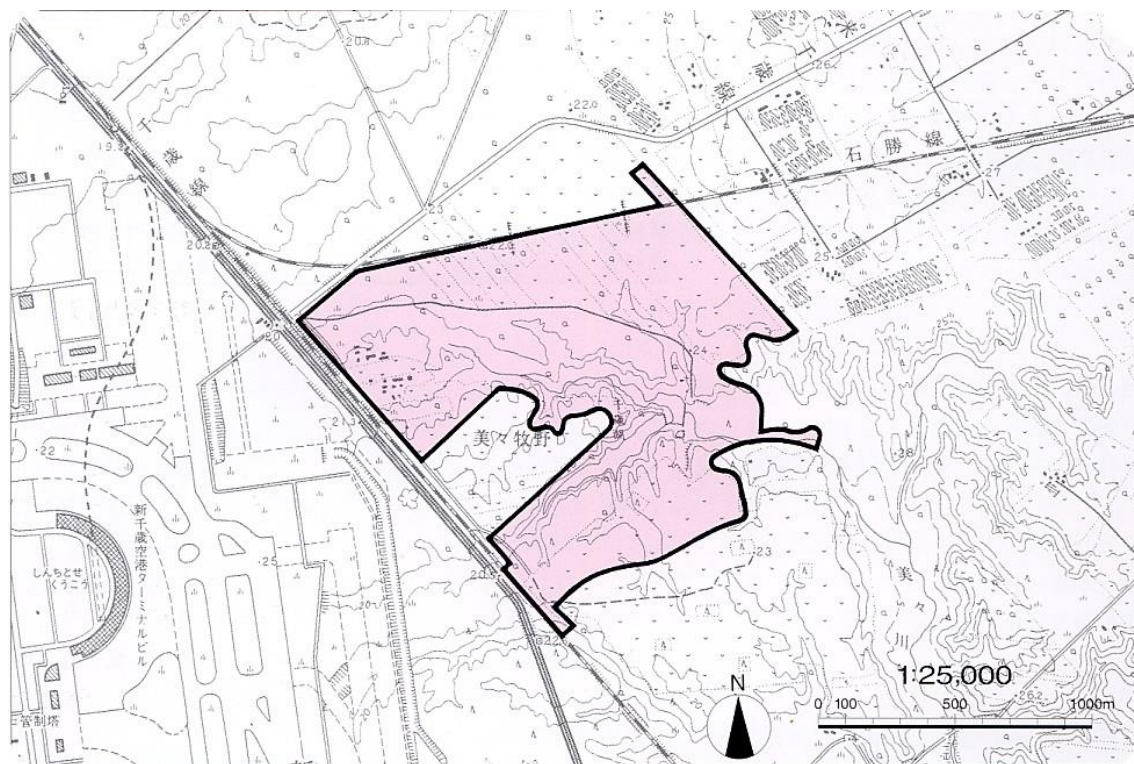
中核施設は、産業業務活動を支援するため、総合相談など事業段階に応じたきめ細やかな支援を行うほか、産業交流の促進などに取り組んでいる。

●重点的に整備されている産業業務施設の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備 考
産業業務施設 商業施設 工場・事業所	千歳市 柏台	民間等	
業務機能支援中核施設	千歳市 柏台	第三セクター	千歳アルカディア・プラザ

(2) 美々地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		約 128.5 ha（河川敷地を除く）
地区の概要	地形等の自然状況	平坦地
	土地利用状況	市街化区域
	下水道整備状況	公共下水道全体計画地区
	施設集積状況	J R南千歳駅
交通アクセス状況		・鉄道（J R南千歳駅）まで自動車で 7 分 ・空港（新千歳空港）まで自動車で 8 分 ・北海道縦貫自動車道（千歳 I C）まで自動車で 12 分 ・北海道横断自動車道（千歳東 I C）まで自動車で 15 分
他の拠点地区との連携		大学の開校による地域の高度技術産業における研究開発の機能分担・支援活動等を行う。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は、新千歳空港に隣接し J R、国道等の整備された極めて高い交通の利便性を有するとともに千歳湖を中心とする優れた自然環境が残された地区である。このことから、千歳湖を中心とした自然と共存した多機能拠点として、隣接する研究開発型企業の集積を目指す生産ゾーンの整備と並行し、若者にとって魅力ある地域を形成するための「学」の機能を担うとともに企業との産学共同研究を推進する千歳科学技術大学が立地する「学術研究ゾーン」、人・技術・情報を有機的に結びつけることを目指す「交流ゾーン」、千歳湖の優れた自然環境の保全・活用と心身をリフレッシュさせる親水環境の整備を図る「保健休養ゾーン」の整備を行う。「学術研究ゾーン」においては、平成 10 年 4 月に光科学を専門とする「千歳科学技術大学」が開学し、平成 14 年 4 月には大学院（博士前期課程）、平成 16 年 4 月には大学院（博士後期課程）が設置されており、大学の研究・開発機能が着実に充実している。

また、第 2 期計画に位置付けた未着手の「交流ゾーン」は、隣接の「生産ゾーン」の企業ニーズに合わせ整備を行う。

「保健休養ゾーン」である美々公園は、平成 6 年に市内 2 か所目の総合公園として都市計画決定しているが、現状では具体的な整備計画はなく未整備となっている。

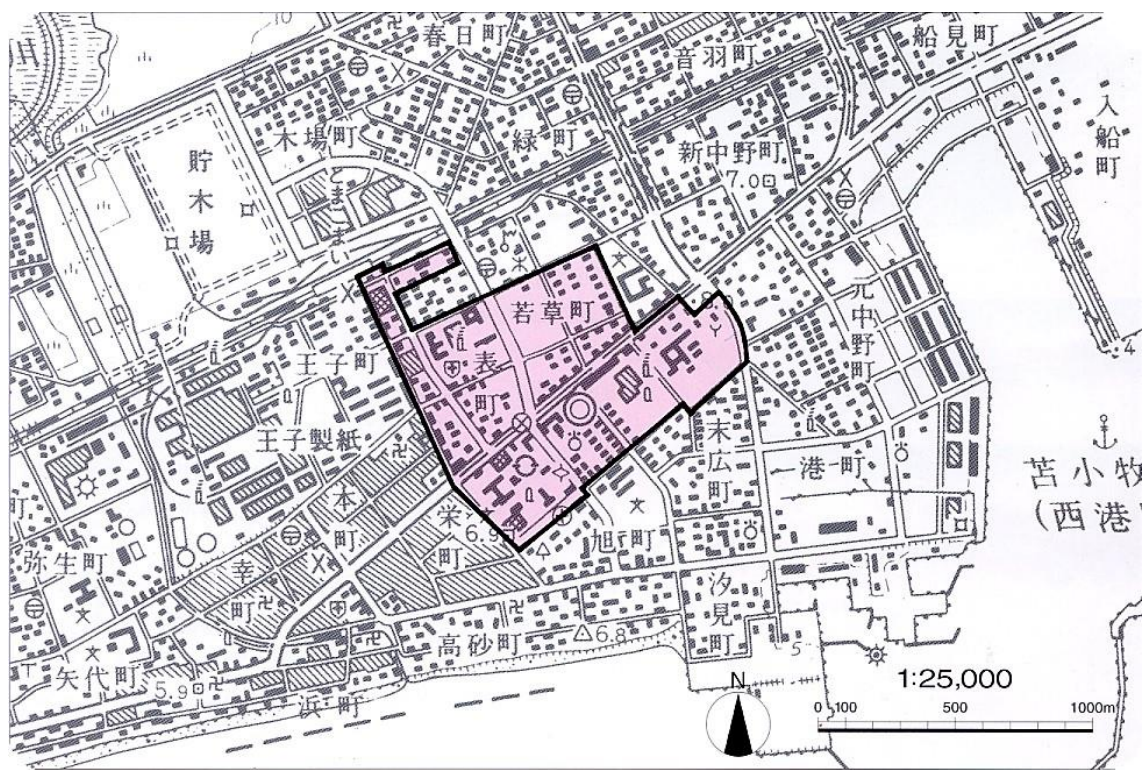
今後については、美々地区の開発状況や北海道が調査検討を進めている美々川再生計画の動向を注視しながら、整備する内容や時期について検討することとしている。

●重点的に整備されている教養文化施設等の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備 考
大 学	千歳市美々（学術研究ゾーン）	学校法人	H 6 ～ 造成工事 H 8 ～ 大学設置認可申請 H 1 0 開校

(3) 苫小牧中心市街地地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		約 84ha
地区の概要	地形等の自然状況	平坦地
	土 地 利 用 状 況	市街化区域
	下 水 道 整 備 状 況	公共下水道整備済
	施 設 集 積 状 況	①文化・スポーツ機能 総合体育館、図書館、サンガーデン、美術博物館、埋蔵文化財調査センター、市民文化公園、中央公園、ココトマ ②コンベンション機能 市民会館、文化会館、グランドホテルニュー王子、ホテルウィングインターナショナル苫小牧 ③商業・アミューズメント機能 <大型店> MEGA ドン・キホーテ <アミューズメント施設> フィットネスクラブ（ジョイフィット） ※その他市役所等公共施設多数あり
交 通 ア ク セ ス 状 況		・鉄道（ＪＲ苫小牧駅）まで自動車で０分 ・空港（新千歳空港）まで自動車、ＪＲ乗継ぎで２２分 ・幹線道路（国道３６号）まで自動車で０分 ・北海道縦貫自動車道（苫小牧東ＩＣ）まで自動車で１０分 ・港湾（苫小牧西港）まで自動車で５分
他の拠点地区との連携		快適でうるおいのある都市空間を創出することによって、就業者及び居住者の生活の満足度を高め、また、地域の都市的魅力を増加させることによって、他の拠点地区の機能を補完、支援する。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は、苫小牧市の中心市街地として様々な都市機能が集積しており、中でも駅前地区は、昭和 45 年から昭和 53 年にかけて都市改造事業を実施し、都市基盤の整備及び商業機能の集積がはかられている。しかし、近年の地域商店街を取り巻く環境の急激な変化やまちづくりにおいて快適性や賑わいを求める住民意識の多様化、さらには構成市町の中で最大の人口を有し、地域内の交通要衝にある中心都市として、本地域においての都市的賑わいや国際交流機能などの高次都市機能を創出すべき役割をもつことから、中心市街地の再生・さらなるグレードアップが必要になっている。

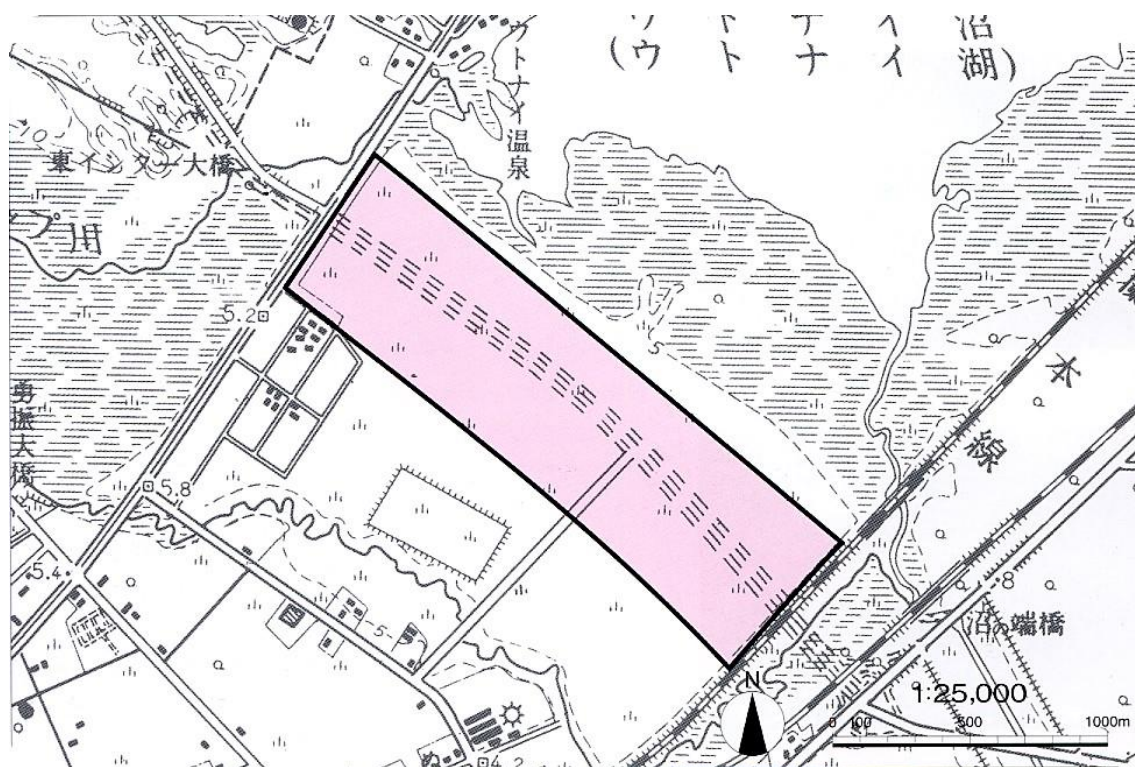
このようなことから、コンベンション施設としても活用できる国際規模のスケート競

技施設「白鳥アリーナ」、女性の教養文化・社会活動や福祉ボランティア活動のセンター施設「市民活動センター」やシティホテル「グランドホテルニュー王子」等の建設とともに、拠点地区内をグレードの高い道路と「緑のネットワーク」で連結するなどの事業を行い、さらに近隣地区において快適な浜辺空間をつくり出す海岸整備事業を進めることにより、都市機能のワンランクアップを実現し、地方拠点法の主旨である地方の人口定住、特に若者を魅きつけるまちの賑わいや都市的魅力を持ったエリアの形成を推進している。

近年の、郊外型大型店の出店、地域商店街を取り巻く環境の変化や住民意識の多様化を踏まえ、商店街の活性化、特に空き店舗対策などにより中心市街地の活性化に努める。

(4) ウトナイ地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		118.9ha
地区の概要	地形等の自然状況	平坦地
	土地利用状況	市街化区域
	下水道整備状況	区域整備事業と並行して整備中
	施設集積状況	事業実施中であり、現在の施設集積はない
交通アクセス状況		・鉄道（ＪＲ苫小牧駅）まで自動車で１０分 ・空港（新千歳空港）まで自動車、ＪＲ乗継ぎで２０分 ・幹線道路（国道３６号）まで自動車で１分 ・幹線道路（国道２３４号）まで自動車で１分 ・北海道縦貫自動車道（苫小牧東ＩＣ）まで自動車で５分 ・日高自動車道まで自動車で１分
他の拠点地区との連携		ウトナイ物流基地は、空港、港湾により集積する貨物を事業の対象とするものであり、新千歳空港・苫小牧港の物流機能を補完する。

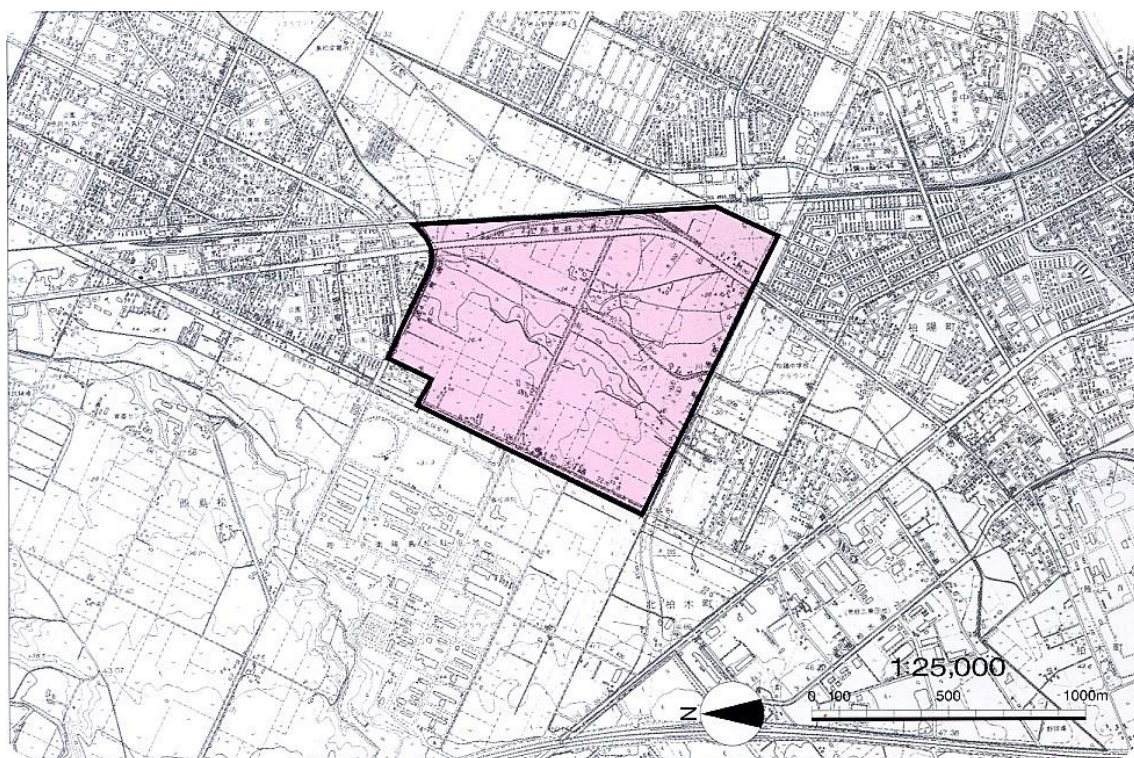
③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は、国際化を目指す日本の「北の国際拠点空港」新千歳空港と、苫小牧東部地域、北海道を代表する海の玄関口苫小牧港を結ぶ地域の中心に位置し、北海道の主要都市を結ぶ北海道縦貫自動車道の苫小牧東インターチェンジに隣接するほか、地域内に日高自動車道の沼ノ端西インターチェンジを有するなど、陸・海・空の交通アクセスに恵まれており、国内・国外に向けた物流拠点を形成する上での優れた立地特性を有している。

これらのことから、空港関連プロジェクトと密接な機能連携を図りつつ、本地域における空港活用型産業の集積を促進するため、土地区画整理事業による都市基盤整備や国際化、情報化等に対応した多機能複合型の開発を目指す地域の特性を生かし、高度な機能を備えた物流拠点の形成を図る。

(5) 西島松地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		約 100ha
地区の概要	地形等の自然状況	平坦地
	土 地 利 用 状 況	市街化区域、市街化調整区域（農業振興地域）
	下 水 道 整 備 状 況	公共下水道整備基本計画地区
	施 設 集 積 状 況	J R 恵み野駅、柏陽中学校
交 通 ア ク セ ス 状 況		・ 鉄道（J R 恵み野駅）まで徒歩で 5 分 ・ 空港（新千歳空港）まで J R 乗継ぎで 20 分 ・ 幹線道路（国道 36 号）まで自動車で 1 分 ・ 北海道縦貫自動車道（恵庭 I C）まで自動車で 6 分
他の拠点地区との連携		本拠点地区の周辺に集積する研究開発・業務機能により、他の拠点地区及び広域的な経済圏の中で多様な産業構造を構築し、他の拠点地区の相乗効果を高める。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は、恵み野駅西口土地区画整理事業により、J R 恵み野駅、国道 36 号、道道江別恵庭線に面する利便性の高い地区ならではの特性をいかした、住環境機能、商業業務機能等の整備が進んでいる。

先端技術産業の試験研究施設や高等教育機関等が集積している周辺地域と連携し、めぐまれた自然環境を生かした公園や住宅の整備を行うことにより、職・住・遊が近接調和したコンパクトな都市環境の創出を図る。

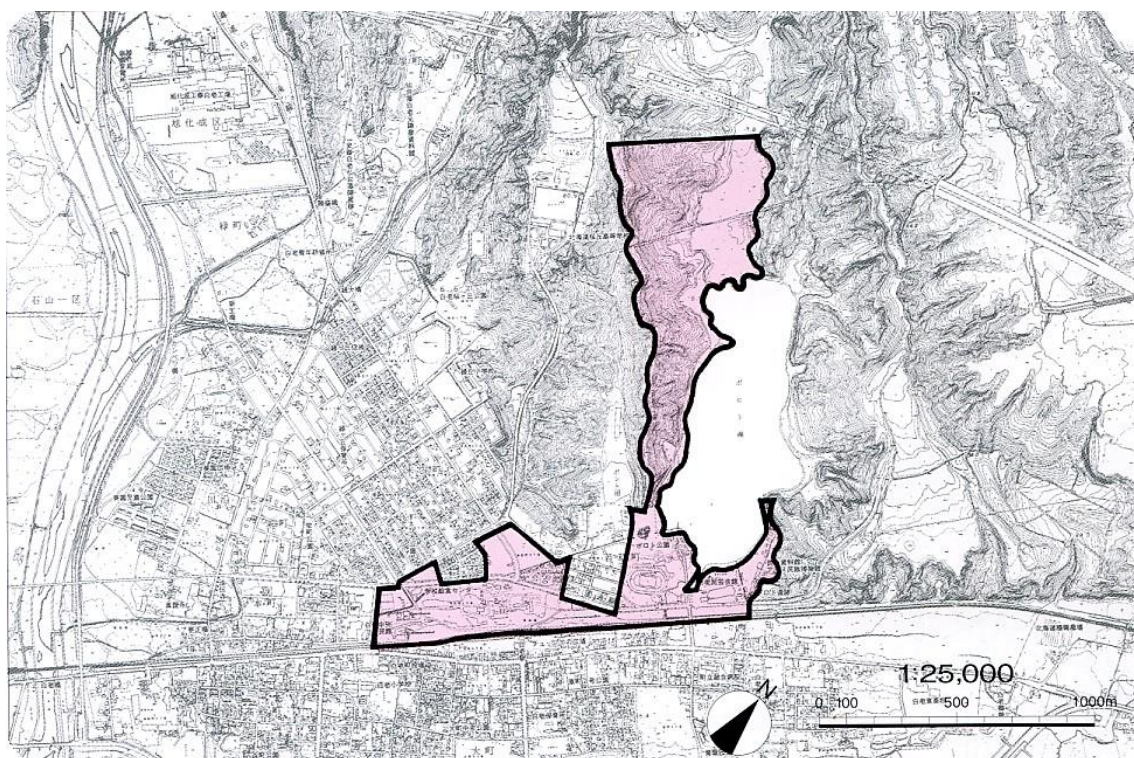
また、ゆとりとうるおいのある住環境を目指し、地区内にある既存樹林帯は「市民交流の森」として保全、活用するとともに、道路、公園、下水道などの基盤整備を推進する。

●重点的に整備される教養文化施設等及び住宅・住宅地の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備 考
スポーツ・レクリエーション施設	恵庭市西島松の一部	恵庭市	市民交流の森
住宅・住宅地	恵庭市西島松の一部	土地区画整理組合	戸建住宅・中高層住宅 160 戸 450 人

(6) 白老駅北地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		76ha
地区の概要	地形等の自然状況	丘陵地含む平坦地
	土地利用状況	市街化区域、市街化調整区域（森林法）
	下水道整備状況	公共下水道一部整備済
	施設集積状況	J R 白老駅、総合体育館、図書館、温水プール、テニスコート、野球場、コミュニティセンター
交通アクセス状況		・鉄道（J R 白老駅）まで徒歩で5分 ・空港（新千歳空港）までJ Rで32分 ・幹線道路（国道36号）まで自動車で3分 ・北海道縦貫自動車道（白老IC）まで自動車で3分
他の拠点地区との連携		本拠点地区が有する恵まれた自然資源やアイヌ文化復興のナショナルセンターとなる「民族共生の象徴となる空間」等の充実により、広域的な教養文化ゾーンを形成し、他の拠点地区との連携を図る。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は、先住民族であるアイヌ文化の拠点として国際的視野で各種社会教育事業を展開している一般財団法人アイヌ民族博物館を有している。また、同文化の保存、振興のため、白老町では平成18年度からイオル（アイヌの伝統的生活空間）再生事業を道内の他自治体に先駆けて実施し、ポロト湖畔にはチセ群を建設するほか、有用植物、樹木等を植栽整備している。また、周辺には自然観察ややすらぎを提供する広大な自然休養林もあり、地域固有の文化や恵まれた自然を有し、J R 白老駅や道央縦貫自動車道に容易にアクセスできる利便性の高い地区である。

さらに、アイヌ文化復興のナショナルセンターとなる「民族共生象徴空間」が2020年に一般公開されることが決定しており、平成27年7月には、国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画が策定され、平成28年度中に基本設計が決定する予定である。また、平成28年5月に国立の民族共生公園の基本計画が策定された。

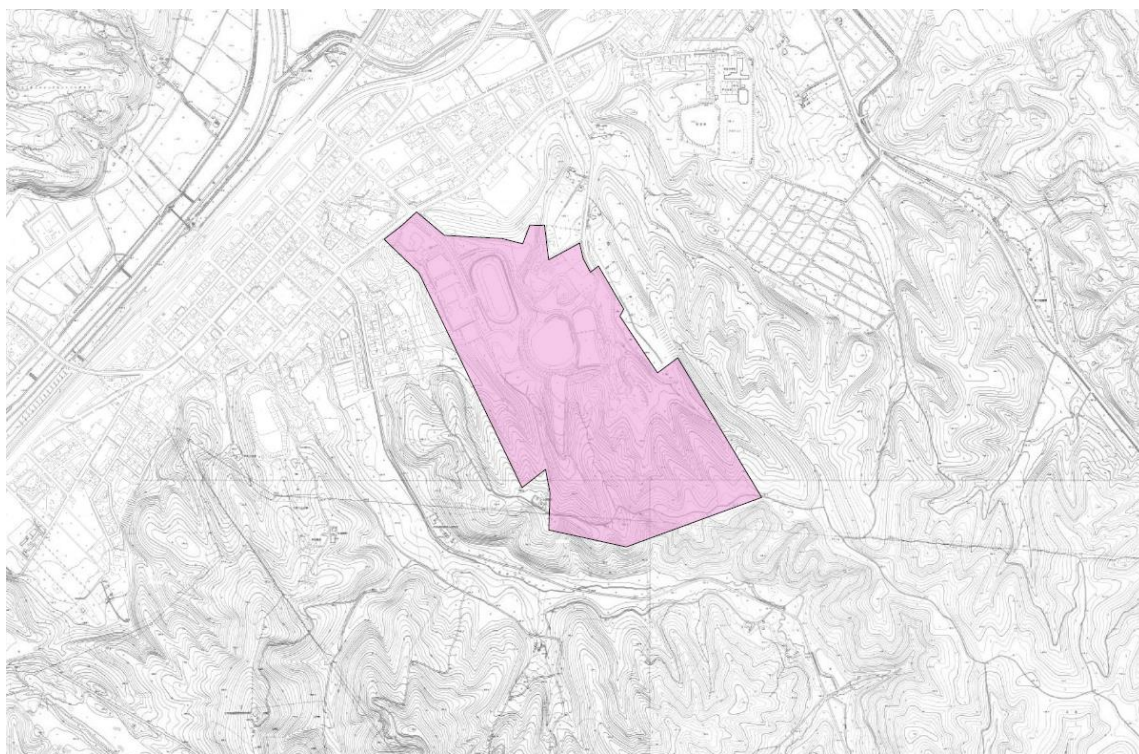
象徴空間整備により、道内外から訪れる多くの人々が広くアイヌ文化を学ぶことができる教育の場となるとともに、地域の特性等を活かし、自然・歴史・文化の調和のとれた周辺環境の整備を進める。

●重点的に整備される教養文化施設等及び住宅・住宅地の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備 考
教養文化施設	白老町 若草町、末 広町	国・白老町・民間	アイヌ民族博物館 伝承施設等整備 チセ整備 体験館整備 民族共生象徴空間（博物館・民族共生 公園等整備） 周辺施設整備
スポーツ・レクリ エーション施設	白老町 若草町 国有林	白老町	白老ふるさと 2000 年の森 湿地観察木橋 カヌー発着場 野鳥観察施設

(7) 安平町早来北進地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		48.6ha
地区の概要	地形等の自然状況	平坦地
	土地利用状況	市街化調整区域
	下水道整備状況	町民センター、スポーツセンター、ときわ公園内、キャンプ場合併処理浄化槽設置
	施設集積状況	ときわ公園（町民センター、スポーツセンター、スピードスケート場、屋外ステージ、ナイター照明付野球場、テニスコート、ときわキャンプ場等）
交通アクセス状況		・鉄道（ＪＲ早来駅）まで自動車で２分 ・空港（新千歳空港）まで自動車で１３分（道道 早来千歳線） ・幹線道路（国道３６号）まで自動車で１０分（道道千歳鷗川線） ・幹線道路（国道２３４号）まで自動車で１分
他の拠点地区との連携		本拠点地区は、四季を通じたスポーツ・レクリエーション機能の集積により、地区住民の自然志向や健康志向等の多様化するニーズに応えるとともに都市と農村の交流の場として、他の拠点地区の支援機能を果たす。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

本地域は、オリンピックメダリストの橋本聖子氏をはじめとするスピードスケートやアイスホッケーのスポーツ選手を数多く輩出するなどスピードスケート、アイスホッケーを中心とした各種のスポーツが盛んな地域でもある。

また、当地区では、地域内各市町と道路ネットワーク等で結ばれる地理的好条件や緑と自然に恵まれた良好な立地環境を有する地区特性をいかし、田園と豊かな自然の中にある牧場や緑の空間を活用した周年利用のできるスポーツ公園を整備してきている。

最近の余暇時間の増加にともなう、健康及び自然志向等の多様化する地域住民のニーズの高まりにより、スポーツを通じた健康教育、また、自然を通じた豊かな情操教育の充実が求められていることから、地域内外住民の日帰り、あるいは、合宿利用者を対象としたスポーツ施設のより一層の整備充実が必要である。そのため、地域の特性をいかし、安平町スポーツセンター「せいこドーム」を核に、健康で豊かな心身の育成の場、都市と農村の交流の場の創出を図る。

事業としては、ときわ公園においてスポーツ施設、レクリエーション施設（ときわキャンプ場等）の交流施設を整備する。

●重点的に整備される教養文化施設等の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備 考
スポーツ施設	安平町早来北進	安平町	ときわ公園（都市公園） スポーツセンター 野球場管理棟 町民センター施設改修（防災支援施設）
レクリエーション施設	安平町早来北進	安平町	ときわ公園（都市公園） ときわキャンプ場（拡張） オートキャンプ場

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		21.0ha
地区の概要	地形等の自然状況	平坦地
	土 地 利 用 状 況	—
	下 水 道 整 備 状 況	公共下水道一部整備済
	施 設 集 積 状 況	拠点地区内～ＪＲ（追分駅、工務所）、鉄道資料館、ぬくもりセンター、多目的スポーツセンター、中央公営住宅、特定賃貸優良住宅、高齢者生活共同施設「ぼっぼ苑」、単身高齢者共同施設「はーと苑」 隣接～日本最古の保健保安林「鹿公園」、公民館、追分幼小中学校、道立追分高校、役場等
交 通 ア ク セ ス 状 況		・ 鉄道（ＪＲ追分駅）まで徒歩で０分 ・ 空港（新千歳空港）までＪＲで１９分 ・ 幹線道路（国道 234 号）まで自動車で２分 ・ 北海道横断自動車道（追分町 I.C 平成 11 年開通）まで自動車で２分
他の拠点地区との連携		新千歳空港を核として千歳の「空」・苫小牧の「海」・追分の「鉄道」などの交通をコンセプトとした広域的な観光ルートを基に、「遊・学」を中心とした「新広域教養文化ゾーン」を形成し、地域内の他の拠点地区との相互交流ネットワークを確立する。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は、明治 25 年に北海道炭鉱鉄道が敷設され、石炭輸送の重要拠点として追分駅、追分機関区が設置されて以来、古くから「鉄道のまち・おいわけ」として約百年の歴史を刻み、道内でも有数の「鉄道文化」の拠点として今日に至っている。

こうした、歴史的資源である「鉄道文化」や新千歳空港から直線で約 15Km という空港近接型の立地特性をいかしながら、「鉄道文化」を通じ育まれてきた伝統を、国際化・情報化にあわせ新しい形で再生し、地域の定住促進を図るための「出会いと交流」の新たな場を創生する。

これまでに、既存の駅前駐車場やぬくもりセンターと一体化した「駅前広場」の整備や、ＪＲ追分駅と小学校を結ぶ道道追分停車場線（ＳＬ街道）の整備を進め、鉄道のまちとして栄えた当町の歴史である「ＳＬをイメージするもの」をコンセプトとした、鉄道文化のイメージの創出を図っている。

また、定住機能を担うため公営住宅等の整備を進め、生活の豊かさを実感できるような良質で低廉な住宅・住宅地を提供するとともに、本計画事業として現在分譲を行っている追分町白樺地区「ラ・ラ・タウン」や、拠点地区に隣接する土地（旧苗畑地）を町が

買い取り、フラワーファームパーク、遊歩道（バリアフリー対応）、広場（キャンプ場）、アスレチック等を整備し、市街地の生活環境を保全するとともに、住民のやすらぎの場の創出に取り組んでいる。

このことにより、「鉄道文化」の香りにあふれた「教育・文化」機能とゆとりとうるおいのある「居住」機能とが相乗効果をもたらし、賑わいのある市街地を形成するなど、良好な生活空間の創造を図っていく。

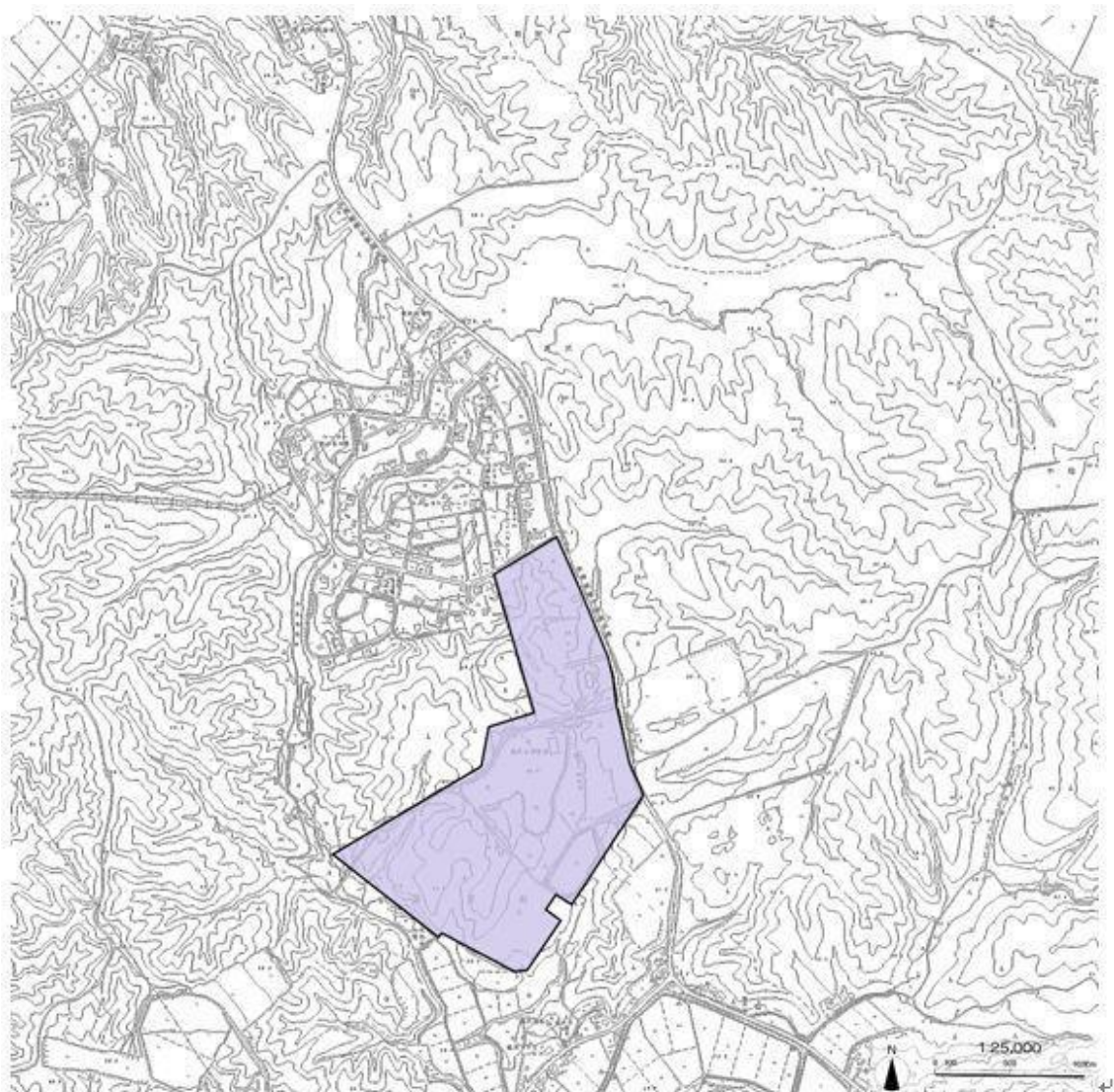
整備の方針としては、ＪＲ北海道と連携を図りながら、本町の顔であるＪＲ追分駅周辺の拠点地区に、教養文化、スポーツ・レクリエーション機能を有した複合施設「（仮称）文化体育館」の整備検討を進めるとともに、道路、下水道などの基盤整備を推進する。

●重点的に整備される教養文化施設等及び住宅・住宅地の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備 考
教育文化施設	安平町追分 中央１番地 安平町追分 白樺１丁目の１部	安平町	（仮称）文化体育館 教養文化機能 スポーツ・レクリエーション機能
住宅・住宅地	安平町追分 中央１番地	安平町	公営住宅 60 戸
			特定優良賃貸住宅 32 戸
			宅地造成 137 区画

(9) 厚真町豊沢地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面 積		32.6ha
地区の概要	地形等の自然状況	一部平坦地を含むなだらかな丘陵地
	土地利用状況	市街化区域
	下水道整備状況	公共下水道一部整備済
	施設集積状況	百年記念公園、新町公園、厚真中学校、厚真中央小学校、町営スケートリンク
交通アクセス状況		・空港（新千歳空港）まで自動車で37分 ・主要道道千歳鶴川線が当地区内（当地区内徒歩5分以内） ・日高自動車道（厚真IC）まで自動車で18分
他の拠点地区との連携		本拠点地区に集積される企業移転施設の充実とその周辺に配置される臨自然型の居住施設等を活用することにより、広域的な企業移転の場を形成し、他の拠点地区との相乗効果を高める。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は「山」「里」「沼」「海」と変化に富んだ自然環境が生み出す四季折々の優れた景観と豊かな産物を特徴とし、「北の国際拠点空港」である新千歳空港や北海道を代表する海の玄関口である苫小牧港との中間点にあり、北海道の主要幹線道路の北海道縦貫自動車道に直結する日高自動車道のインターチェンジが整備されるなど、陸・海・空の交通ネットワークに恵まれ、広域的な交通アクセス上非常に有利な立地条件を備えている。

近年、ビジネスの国際化や企業のリストラが進む中、優れた人材育成や人材の有効活用及び新たな働き方等の企業ニーズが高まり、また、都市においては、自然志向や田舎志向、地方回帰等への関心も高まる中であって、企業も豊かな自然と非日常性を求めて地方への移転を積極的に行っている。当地区では、このような状況下「空港や港に近い」という利点と本町の最大の特徴である「優れた自然環境」と「おいしい田舎」をいかし、『自然を媒介とした人間回帰と交流の場』となるサテライトオフィス等を整備することにより、新千歳空港周辺に集積する国際的、先端的な企業はもとより、空港機能を活用してより広範な地域の企業を対象に、新たな働き方を展開する場を提供する。

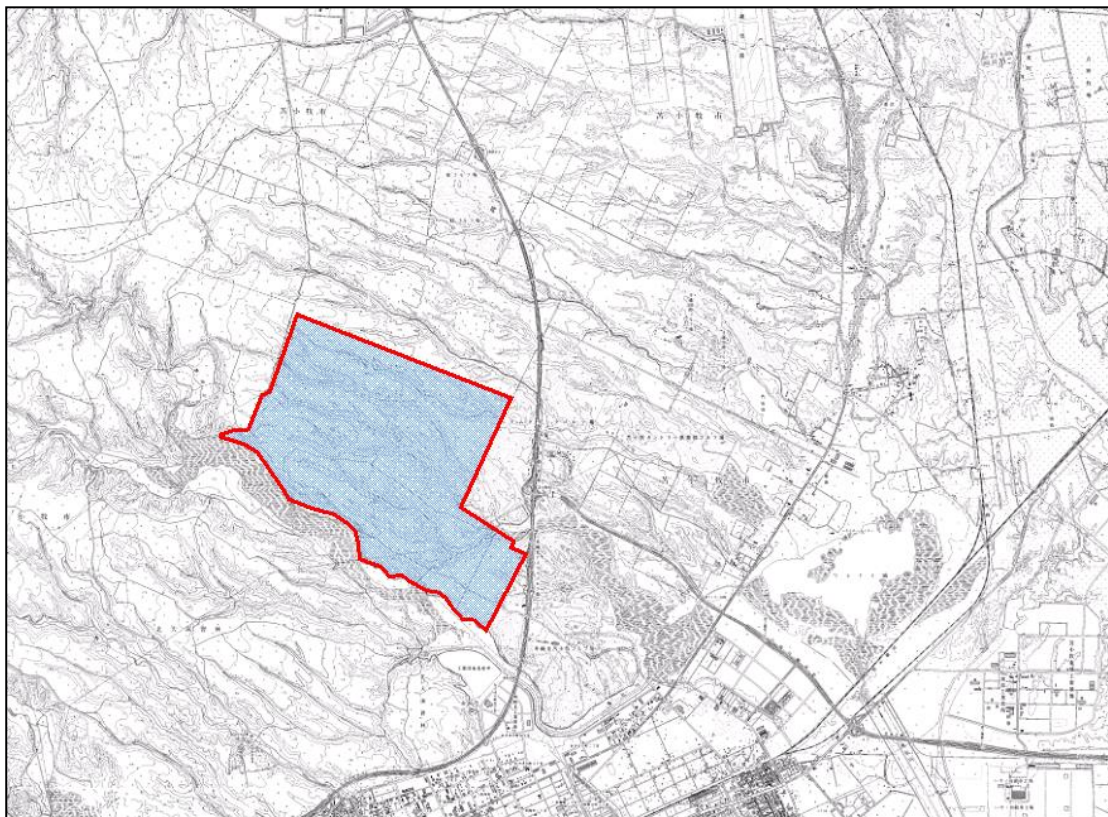
事業としては、自然環境に配慮した工業団地の造成事業やサテライトオフィスの整備事業を行うとともに、本地域に隣接して、居住機能を整備するなど企業移転等を補完する事業、道路、公園など関連する基盤整備を推進する。

●重点的に整備される業務施設等の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備 考
業務施設 業務用地	厚真町 字豊沢	厚真町	豊沢工業団地
業務施設 業務用事務所	厚真町 字豊沢	厚真町	サテライトオフィス

(10) 植苗・美沢地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面積		約1,057ha
地区の概況	地形等の自然状況	一部平坦地を含む山林
	土地利用状況	市街化調整区域
	下水道整備状況	公共下水道全体計画区域外のため未整備 (事業実施時に合併処理浄化槽設置により対応予定)
	施設集積状況	事業実施予定であり、現在の施設集積はない
交通アクセス状況		・鉄道(JR沼ノ端駅)まで自動車で5分 ・空港(新千歳)まで自動車で20分 ・幹線道路(国道36号)まで自動車で5分 ・北海道縦貫自動車道(苫小牧東IC)まで自動車で10分
他の拠点地区との連携		本拠点地区に集積される滞在・研修施設、交流施設などの整備により、豊かな森林を活用した国際的な交流拠点を形成し、他の拠点地区との相乗効果を高める。

③ 整備方針及び重点的に実施すべき事業の概要

当地区は、北海道の空の玄関口である新千歳空港に近接し、かつ、内外から高く評価されている豊かな森林景観を有する広大な民有地であり、苫小牧市総合計画(第5次基本計画・平成19年11月策定)において開発と保全の調和がとれた土地利用を図る、森林共生ゾーンとして位置づけられている。

従来型の森林の活用方法としては林業が中心であったが、効率性や経済性を追及するあまり大規模伐採、生態系の変化、採算の合わない森林の放置という状況が少なからず見られるのが現状である。当地区における地域開発の方針は、森林を保全整備することにより、美しい景観を守ることを最終目的としており、その目的を達成するために、当地区の来訪者に、森林に長期滞在して、森林の恵みを享受し、日常生活のストレスを解消してもらい、その収益によりさらに森林保全整備を進めるという、持続的な循環を目指す、新たな環境保全モデルのコンセプトに基づく国際的な交流拠点を整備しようとするものである。こうした観点に立って、市街化調整区域である当地区に必要な関連施設を整備する。

拠点の形成に当たっては、民間の活力を活用して、長期滞在に対応するための宿泊機能や健康回復・増進等の医療機能の整備のほか、森林体験プログラムの提供や森林レクリエーション施設等を整備し、特に海外や道外からの来訪者の誘致・集積を図り、国際的な交流を推進する。

●重点的に整備される施設の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備考
研修滞在施設	苫小牧市字植苗	民間	レセプション施設、ホテル、コテージ、インフォメーション施設、売店
スポーツ・レクリエーション施設	苫小牧市字植苗	民間	フォレスト・フットパス、ホーストレッキングコース、コテージ、乗馬施設、森林公園
診療施設	苫小牧市字植苗	民間	森林療法診療・療養施設

●植苗・美沢地区開発行為の概要

〔開発内容〕 研修滞在施設、スポーツ・レクリエーション施設、診療施設

〔開発区域及び面積〕 苫小牧市植苗・美沢地区の一部 約 42ha（造成区域）

〔開発主体〕 民間事業者

〔土地利用計画の概要〕 建築物、駐車場、道路、フットパス、ホーストレッキングコース、沈砂池等

〔開発行為の目的〕 研修滞在施設、スポーツ・レクリエーション施設、診療施設のための土地区画形質の変更

〔建築物の用途〕 ビジターセンター（売店、飲食店を含む）、教育・企業研修用宿泊施設、長期滞在施設、健康回復宿泊施設、診療所、乗馬施設

〔公共施設整備の状況〕 事業敷地内の認定市道について、事業者による整備後、市に移管する。

(11) 蘭越地区

① 区域図



② 拠点地区の現況

面積		6.0ha
地区の概況	地形等の自然状況	山林
	土地利用状況	市街化調整区域
	下水道整備状況	公共下水道全体計画区域外のため未整備
	施設集積状況	事業実施予定であり、現在の施設集積はない
交通アクセス状況		・鉄道（JR千歳駅）まで自動車で11分 ・空港（新千歳空港）まで自動車で17分 ・幹線道路（国道36号）まで自動車で7分 ・北海道縦貫自動車道（千歳IC）まで自動車で13分
他の拠点地区との連携		本拠点地区は、滞在型施設、交流施設などの整備により、自然環境の活用と保全の視点に基づく新たな国際交流拠点を形成し、他の拠点地区との相乗効果を高める。

③ 整備の方針及び重点的に実施すべき事業の概要

本地域は、国際化が進む新千歳空港に近接し、千歳川の清流や森林など豊かな自然環境が体感できる地域であり、「千歳市第3期都市計画マスタープラン」においては、自然環境を活用した新たな滞在型の観光交流ゾーンを形成するものとしている。

当地区における地域開発の方針は、これらの観点に基づく新たな国際的な交流拠点を形成し、海外及び道外からの来訪者に、地域の自然を体験してもらい、“都心では体験できない癒しの空間”の中で自然の保全に関する意識醸成を目指す、国際的な交流拠点を整備しようとするものである。こうした観点に立って、市街化調整区域である当地区に必要な関連施設を整備する。

拠点の形成に当たっては、民間の活力を生かし、長期滞在に対応するための宿泊機能のほか、豊かな自然を体験できるプログラムの提供やその他のレクリエーション施設を整備し、国内外からの来訪者の誘致・集積を図り、国際的な交流を推進する。

●重点的に整備される施設の概要

種別及び種類	概ねの位置	事業主体	備考
研修滞在施設 （アクティビティセンターA棟）	千歳市蘭越	民間	ホテル、飲食施設（レストラン、バー、カフェ）、物販施設、温浴施設（サウナ）
教養文化施設 （アクティビティセンターB棟）	千歳市蘭越	民間	インフォメーション施設（アクティビティ受付）、飲食施設（レストラン、カフェ）
体験施設	千歳市蘭越	民間	屋内体験施設、野外体験施設

●蘭越地区開発行為の概要

[開発内容] 研修滞在施設、レクリエーション施設 ほか

[開発区域及び面積] 千歳市蘭越地区の一部 約6ha

[開発主体] 民間事業者

[土地利用計画の概要] 建築物、駐車場、道路等

[開発行為の目的] 研修滞在施設、レクリエーション施設のための土地区画形質の変更

[建築物の用途] 温浴施設、研修及び長期滞在施設（飲食施設、売店含む）、教養文化施設（観光案内、カフェ含む）、体験施設（屋内体験施設、野外体験施設）

[公共施設整備の状況] 事業区域内の公共施設（上下水道、道路等）については、民間事業者が整備し、維持管理する。

第5章 重点的に推進すべき事項

1. 公共施設

本地域は、新千歳空港の空港機能を核とした陸・海・空の交通の要衝の地であり、高次の都市機能の導入・集積によって、産業経済の発展や人口の増加が着実に見込まれ、本道の発展の核となり得る地域である。したがって、今後、構成市町は地域の特性を踏まえ、役割、機能の分担を図りながら、国際的な産業交流拠点機能の整備、教養文化、レクリエーション機能の充実、居住機能の整備及び情報・通信ネットワーク等の構築を図る。なお、地域内の農業・農村整備等との調和に配慮しながら整備を進める。そのためには、上記都市機能を有機的に連携させる高規格幹線道路、空港、港湾を核とする広域高速交通ネットワークを整備し、本地域の開発可能性を高めるとともに、各拠点を効果的に連絡する道路ネットワークの整備、また、本地域内での道路、河川、下水道をはじめとする生活基盤の整備による快適で良好な生活環境の創出、治水・治山の推進による安全な生活空間の実現を図ることが必要であり、関連公共施設の整備を積極的に推進していく。

(1) 河川・砂防・海岸

安全でうるおいのある生活基盤を創出するために、現在進められている河川、ダム、砂防、海岸整備事業の推進により、治水事業、水資源開発事業等の積極的な展開を図る。

このうち河川については、地域の治水対策・河川環境整備を目的とした勇払川（苫小牧市）、安平川（安平町）、厚真川（厚真町）等の整備を行うとともに、特に、千歳川（千歳市）、漁川・島松川（恵庭市）など、千歳川流域の治水対策については、地域との調整を図りながら推進する。

また、ダムについては、治水・水源確保等を目的とした厚幌ダムの整備を進める。

砂防事業については、樽前山噴火による被害防止を目的とした樽前山火山砂防事業を推進するとともに、地すべり、急傾斜、雪崩事業についても整備を促進する。

海岸事業については、高潮・越波及び侵食防止を目的として、人工リーフや緩傾斜護岸の整備など胆振海岸保全施設整備事業を推進する。

なお、本地域には、支笏洞爺国立公園やバードサンクチュアリ（ウトナイ湖）をはじめとする、貴重な自然が残されていることから、整備にあたっては、自然環境の保全、創出について十分配慮する。

(2) 道路

拠点都市地域として、北海道縦貫自動車道、北海道横断自動車道、日高自動車道、国道36号などにより、札幌市をはじめ道央圏はもとより全道各地域とのネットワークが強化されているが、さらに、道央圏連絡道路（国道337号）等の主要な幹線道路の整備を促進するとともに、新千歳空港や苫小牧港等の空港・港湾と拠点地区や主要な幹線道路を結

ぶ道道新千歳空港線、道道泉沢新千歳空港線等の整備を推進していく。

また、拠点地区などの相互連結を強化し、円滑な拠点都市地域内の交通ネットワークを形成するため国道 36 号、276 号などの国道及び道道千歳鷗川線、道道静川美沢線等の幹線道路網の整備やこれらと一体となった道路網の整備を推進し、多様な交通ネットワークを形成するとともに交通安全と円滑化に配慮する。さらに、円滑な都市交通を確保するため、バイパス、環状道路等の整備を進めていく。

(3) 鉄道

都市間輸送の高速化対策が進んでいるが、さらに地域の一体化や新千歳空港へのアクセスの向上を図るため、J R 線の札幌～苫小牧間のスピードアップ等を目指す。

(4) 空港

新千歳空港は、航空需要の増大と国際航空路線網の新たな形成に対応するため、Ⅲ期に分けて整備を進めており、昭和 63 年 7 月（第Ⅰ期）に A 滑走路が、平成 4 年 7 月（第Ⅱ期）には新ターミナル地区が供用開始されているほか、平成 8 年度には B 滑走路（3,000m）が供用開始しており、全体計画の完成に向け整備を促進していく。さらに、長距離国際路線の安定運航など国際的拠点空港化を図るため、滑走路の 500m 延長を目指す。

また、C I Q 体制をはじめとする各種空港関連機能や国際線ターミナル機能の拡充など、国際化に対応した交通拠点としての整備を行うとともに新千歳空港の一層の国際化に向け、新たな国際定期航空路線の開設等を促進する。

(5) 港湾

国際拠点港湾である苫小牧港は、フェリー・R O R O 船などの内貿定期航路をはじめ、北米や中国、韓国方面との外貿コンテナ航路が就航しており、港湾取扱貨物量は北海道の約半分、外貿コンテナ貨物については約 7 割を占めるなど、北日本最大の国際物流拠点として北海道経済に重要な役割を果たしており、さらなる物流需要の拡大に対応するため、東港区の国際コンテナターミナルの機能強化を図るとともに、西港区における内貿ユニットロードターミナルの整備を進めている。

また、大規模災害における道民の安全・安心の確保と北海道経済への影響を最小限に抑える必要があることから、西港区西ふ頭において耐震強化岸壁が整備され、緊急物資輸送や国内幹線物流機能確保のための整備が進められている。

さらに親しみやすい港を目指し、クルーズ船の誘致や西港区北ふ頭緑地でのイベント誘致などを行っている。

(6) 下水道等

地域住民の生活環境の改善及び河川など公共用水域の水質保全をより一層進めるため、

既に公共下水道整備事業に着手している千歳市、苫小牧市、恵庭市、白老町、安平町に加え厚真町の3市3町において、公共下水道整備事業を推進する。

(7) 公園・スポーツ・レクリエーション施設

恵まれた自然生態系の保全や地域文化の継承に考慮した特色ある公園整備や湖沼、海浜部、河川敷を利用したレクリエーション機能の充実を目指し、各市町の公園・スポーツ・レクリエーション施設の整備を促進する。

公園としては、美々公園（千歳市）、緑ヶ丘公園（苫小牧市）、ときわ公園（安平町）、市民交流の森（恵庭市）、上厚真中央公園（厚真町）等の整備を促進し、スポーツ・レクリエーション施設としては、ふるさと2000年の森（白老町）、苫小牧市のアイスアリーナ、厚真町の全天候型多目的土間体育館のほか、安平町のスポーツセンター等を活用しながら、地域の「遊」機能ネットワークの充実・整備を図る。

特に、北海道におけるオートキャンプの中核地点となるオートリゾート苫小牧については、北海道の大自然をいかした野外レクリエーション・観光ネットワークの中心施設として、機能向上を促進する。

(8) 学術研究・教養文化施設

本地域における「学」機能の充実を図るため、千歳市において理工系大学が立地しているほか、恵庭市においては大学の研究機関や専門学校等の整備を行う。

苫小牧市においては、地域の人材育成機能等の中核的施設として苫小牧市テクノセンター、社会教育のための青少年キャンプ場が整備されている。

また、本地域の中核となる教養文化施設として、苫小牧市の文化交流センターが整備されているほか、白老町では、アイヌの歴史・文化を学び伝える「民族共生の象徴となる空間」が2020年に一般公開されることが決定し、厚真町では歴史文化を学習・体験できる場として（仮称）厚真町埋蔵文化センターの整備、安平町では（仮称）文化体育館等の整備を検討している。

(9) 情報通信基盤

情報通信を取り巻く環境は近年劇的に変化しており、情報通信をめぐる新しい動きは社会・経済活動へのインパクトのみならず、家庭や個人の暮らし・生活にも画期的な変革をもたらしつつある。

このような背景のもと、構成市町において地域情報化の基盤整備を進めるとともに、インターネット等による本地域内の情報ネットワーク化を図る。

2. 居住環境

(1) 居住環境の整備方針

本地域においては、国際的な人・物・情報が集中し交流する国際空港都市地域として、空港に近接している利便性と優れた自然環境、各市町の地域特性をいかしながら、医療、福祉、情報、教養文化、レクリエーション、その他の高次都市機能の集積、土地地区画整備事業等の面的・一体的整備や道路、河川、公園、上下水道等の都市基盤整備などの推進により、国際化に対応したゆとりとうるおいのある高水準の居住空間、居住環境の形成を図る。あわせて、若者の定住や高齢者向住宅など時代のニーズに即した多様なライフスタイルに対応するため、公営住宅の建替等を推進するほか、中堅所得者およびI、J、Uターン者向けの特設優良賃貸住宅の供給や各種貸付制度を利用した持家の建設促進を図る。なお、居住環境の整備にあたっては、自然環境の保全と調和に配慮し、公園・緑地の確保や緑のネットワークの形成などによってみどり環境を創造し、魅力ある環境の形成に努めるとともに、障がい者や高齢者など誰もが生活できる福祉のまちづくりに努める。

(2) 公的住宅の建設方針

本地域における公的住宅については、産業業務施設や試験研究機関の集積にともなう新たな就業の場の確保に見合う受け皿づくり、ならびに低所得者層の居住環境、持家までの支援としての役割といった観点から、各市町の住機能整備方針にもとづき計画的な整備を促進する。特に、白老町の高齢化に配慮したシルバーハウジングプロジェクトや安平町の中堅所得者や単身者を含む各階層の需要に応じた公的賃貸住宅の建設を図る特定優良賃貸住宅供給促進事業、厚真町の子育て世代の移住・定住に特化した子育て支援住宅整備事業など、地域の特徴をいかしながら、年齢層、所得者層等のバランスの取れた住宅施策を行っていく。

3. 商業

千歳市及び苫小牧市では、地域の中心都市にふさわしい商業機能等の充実を図り、地域住民や訪問客に対し、より快適で魅力ある都市空間を整備していくために、商店街の活性化などが求められている。苫小牧市においては、中心市街地でシンボルストリートや駅前広場など買い物客の快適歩行空間を活かすなど、中心市街地の活性化をめざし官民一体となった商業環境づくりに努める。

4. 医療・福祉

本地域においては高齢化社会への対応に向けて、各市町が「老人保健福祉計画」を作成し、その実現化に向けて取り組んでいる。さらに、障がい者や高齢者が地域において自立した生活を送ることができるよう、医療・福祉をはじめとする関連施策の充実を図る。

5. 人材育成、地域間交流、教養文化活動等

本地域を魅力ある地方拠点都市地域として整備するためには、産業業務施設や高次都市機能、情報通信基盤や高等教育機関の整備とあわせて、人材育成、国内外との交流、教養文化活動事業の展開などを総合的に進めることが必要である。

(1) 人材の育成・確保

人材の育成については、現在、各市町等において独自に行われている研修事業のネットワーク化及び人的交流の促進を図り、地域における人材の育成を進める。また、各自治体において独自に行われている派遣研修事業を共同化し、地域全体として年齢・職業・目的別の派遣団を組織することにより、事業の拡大を図る。また、派遣の成果を報告する場を提供し、地域全体の国際化推進の一助とする。さらに、地域独自の広報誌を発行し、雇用・就職情報等の提供を行い、地域間の人的交流の促進を図る。

(2) 地域間交流

地域間交流については、新千歳空港や充実した広域高速交通体系、情報通信システム等の活用を図りながら、文化、スポーツ、レクリエーション等を通じて地域内外における交流活動や姉妹都市をはじめとする国内外他都市との交流などを積極的に推進する。国際交流については、千歳市とアンカレジ市（アメリカ）、苫小牧市とネーピア市（ニュージーランド）、秦皇島市（中国）、恵庭市とティマル市（ニュージーランド）、白老町とケネル市（カナダ）など姉妹・友好都市間の各種交流を図るとともに、年齢・職業・目的別の交流を推進する。

(3) 教養文化活動

教養文化活動については、現在、各自治体による文化・芸術活動への支援・実施及び住民独自の活動が行われているが、類似性が強い活動については、活動の一体化を図り、事業の拡大と地域間交流を促進させる。また、地域・伝承文化及び歴史的遺産の継承、保存、活用を目的とした施設を整備することとしており、これらの施設を有効に活用し、地域住民が貴重な文化と触れ合う機会の創出を図る。

(4) 共同事業

地方拠点都市地域の整備効果を一層高めるためには、各市町がより強い連携のもと、地域住民や企業などとも一体となり、機能集積を活用しながら個性的な取組を進め、地域の発展に結びつけることが必要である。

このため、地域住民が等しくサービスを享受できる環境をつくりあげることが重要であることから、文化、スポーツ等の公共施設の機能連携を進めるとともに、教養文化・スポーツ交流活動事業の共同開催やネットワーク化を推進する。

特に、人材育成事業、派遣研修事業、スポーツ交流事業、青少年野外活動交流事業、文化活動交流事業、体験学習交流事業などにおいて積極的な共同事業を進めるほか、既存の広報誌を活用するなど、共同で情報を提供するなどの事業を進める。

なお、事業の実施において、札幌広域圏組合や東胆振広域市町村圏を構成する市町村との共同開催を進めるなど周辺市町村との連携に十分配慮する。

第6章 その他整備に関し必要な事項

1. 地域振興に関する計画等との協調

本計画は、国の国土形成計画や北海道総合開発計画、北海道総合計画のほか、苫小牧東部開発新計画、産業集積の形成又は産業集積の活性化に関する基本計画など、国・北海道の各種計画との調和を図り、かつ本地域各市町の基本構想に即して作成しており、基本計画の推進にあたっては、これら地域振興に関する計画等との調和に十分配慮して進めるものとする。

2. 環境の保全

本地域には、支笏洞爺国立公園やバードサンクチュアリ（ウトナイ湖）をはじめとする貴重な自然が残されていることから、地域の整備にあたっては、以下のような視点から自然の保全、創出について配慮するほか、「21世紀の国際空港都市地域」にふさわしい良好な都市景観の形成に努める。

- ① 緑豊かで、雄大な自然が多く残されている地域特性を恒久的に保存するため、自然環境の保全及び自然との調和に配慮する。
- ② 清らかな水辺環境の創出、緑化の推進を行うとともに良好な都市環境の形成に配慮した土地利用を行う。
- ③ 資源エネルギーの利用節減、再利用等を行い良好な環境の創出に配慮する。
- ④ 生活及び産業排水による水質の汚濁防止、産業廃棄物の適正な処理等を行い、公害の防止に努める。
- ⑤ 生活及び生産活動による大気汚染を防止するため、既存の大気汚染監視局、測定網を活用し、その防止に努める。
- ⑥ 航空機及び自動車騒音等に係る環境保全に配慮する。
- ⑦ 文化財等の適切な保護に配慮する。

3. 地価の安定

地域の整備促進にあたっては、以下のような視点から地価の安定に対して十分配慮する。

- ① 土地の有効利用の促進、土地利用の転換等により、良質な土地の供給を進めるとともに、地価の安定を図る。
- ② 北海道との密接な連携を図り、地価の動向及び土地取引状況の監視に努める。

4. 適正かつ合理的な土地利用

地域の整備促進にあたっては、国土利用計画法をはじめとする土地利用関係法令にもとづき、適正かつ合理的な土地利用に努める。具体的には空港直近地域及び都市部にあっては未利用地の利用促進、未整備市街地の計画的な整備等土地の高度利用や都市施設の

集積とともに良好な緑地空間の確保に努める。また、空港周辺地域及び農村部にあっては、長期的視点にたった田園都市づくりを目指すなど適正かつ合理的な利用がはかられるよう配慮する。

5. 国土の保全、災害の防止

地域の整備促進にあたっては、自然災害を防止するために河川、砂防、海岸等の整備を図る。

また、良好な自然環境を保全しつつ、適切な治山、治水対策を講ずることにより、一層の国土保全、水資源の確保に努める。

6. 農山漁村の整備の促進等に関する配慮

地域の整備促進にあたっては、農林漁業の生産基盤及び生活基盤の整備、経営の近代化や複合化のための施設整備、農畜産物のブランド化や空港と港湾に近い利点をいかした高度な流通システムの構築、新たな寒冷地農業技術の開発や人材育成などを推進し、地域の特性や資源をいかした活力ある農林漁業の振興に配慮する。

また、国の農業振興地域整備計画にもとづき、優良農用地を確保することを基本として都市的土地需要との調整を図り、秩序ある土地利用に努めるとともに、農山村の優れた自然景観や資源を活用した農村型レクリエーションの場の整備を図るなど、都市と農山漁村との連携及び交流を一層促進させ、それぞれの機能を補完しながら、ともに発展する快適でゆとりある地域づくりに配慮する。

7. 地域産業の健全な発展との調和

本地域には道内でも有数の工業地帯が形成されているが、地域の整備促進にあたっては、制度融資等の関連施策の積極的活用を図るなど中小企業の振興に努めるとともに、地域産業の健全な発展と調和がはかられるよう十分配慮する。

また、魅力ある雇用機会の創出により、雇用の促進がはかられるよう十分配慮する。

8. 周辺地域の振興に関する配慮

地域の整備促進にあたっては、広域的な交通や情報・通信ネットワークの整備、教養文化、スポーツ・レクリエーション施設の活用などにより、周辺地域との地域振興施策の連携を進め、広域的な振興がはかられるよう十分配慮する。

9. 推進体制の確保

本地域の整備にあたっては、構成市町が設置している「千歳・苫小牧地方拠点都市地域整備推進協議会」において、関係各市町間の密接な連絡・調整を図るとともに、関係広域行政機構と十分連携を図りながら、計画の円滑な推進に努める。

千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画（改訂）

発行日 平成 28 年 8 月（令和 3 年 10 月一部改訂）

発行 千歳・苫小牧地方拠点都市地域整備推進協議会

事務局 千歳市企画部企画課

〒066-8686 千歳市東雲町 2-34 Tel0123-24-3131

構成市町 苫小牧市総合政策部政策推進室政策推進課

〒053-8722 苫小牧市旭町 4-5-6 Tel0144-32-6111

恵庭市企画振興部企画・広報課

〒061-1498 恵庭市京町 1 Tel0123-33-3131

白老町企画課企画グループ

〒059-0995 白老町大町 1-1-1 Tel0144-82-8213

安平町企画財政課企画グループ

〒059-1595 安平町早来大町 95 Tel0145-22-2751

厚真町まちづくり推進課企画調整グループ

〒059-1692 厚真町京町 120 Tel0145-27-2321